

小口径配水管布設工事用

標 準 図 集

千葉県企業局

1. 土工定規

1) たて込み工法掘削巾 管径 φ50～φ400 -----	1
土留工設置例（参考図）	
① 簡易鋼矢板たて込み（ベタ） -----	2
② 簡易鋼矢板たて込み（1枚おき） -----	3
③ 簡易鋼矢板たて込み（接合部） -----	4
2) 不断水連絡工 -----	5
3) 断水連絡工 -----	7
4) 仮配管連絡工 -----	7
5) 栓設置工 -----	7
6) 消火栓・空気弁設置・撤去工 -----	8
7) 仕切弁設置工 -----	8
8) 分水止め工 -----	8
9) 仕切弁撤去工 -----	8
10) 仮設不断水止水栓設置・撤去工 -----	8
11) 鉛給水管単独更新 -----	9

2. 抜き防止のための必要拘束長さ（T形の場合）

1) 水平曲管部 -----	11
2) T字管部 -----	12
3) 栓・仕切弁部 -----	13
4) 片落管部 -----	14
5) 使用上の注意事項 -----	14

3. NS形・GX形の一体化長さ

1) 曲管部 -----	15
2) T字管部 -----	16
3) 栓・仕切弁部 -----	17
4) 片落管部 -----	17

4. S50形の一体化長さ

1) 水平T字部 -----	18
2) 水平曲管部、Sベンド部、伏せ越し部 -----	18
3) 片落管部 -----	19
4) 管端部 -----	19

5.	コンクリート防護工		
	1) 連続防護工	-----	20
	2) 不断水連絡工防護図	-----	21
6.	栓防護工（耐震管は除く）	-----	22
7.	仕切弁筐設置工		
	1) ノンカット式仕切弁筐（ソフトシール弁）	-----	23
	2) 止水栓丁筐設置工	-----	24
8.	消火栓・配水施設据付図		
	1) 消火栓鉄蓋及び補修弁据付図	-----	25
	2) 単口消火栓据付図	-----	26
	3) 双口消火栓据付図	-----	27
	4) 空気弁付消火栓据付図	-----	28
	5) 単口消火栓・単口空気弁室築造図	-----	29
	6) 双口消火栓室築造図	-----	30
	7) 空気弁付消火栓室築造図	-----	31
	8) 双口空気弁・急速空気弁室築造図	-----	32
	9) 配水管用排水施設図	-----	33
	10) 排水柵設置図	-----	34
	11) 蓋の高さ調整	-----	35
9.	その他		
	1) 給水管切替工	-----	36
	2) 仮配管工（参考図）	-----	37
	3) 仮設仕切弁筐設置図	-----	38
	4) 仮設消火栓室設置図	-----	39
	5) 吊り防護工（参考図）	-----	40
	6) 覆工（参考図）	-----	41

1. 土工定規

1) たて込み工法掘削巾

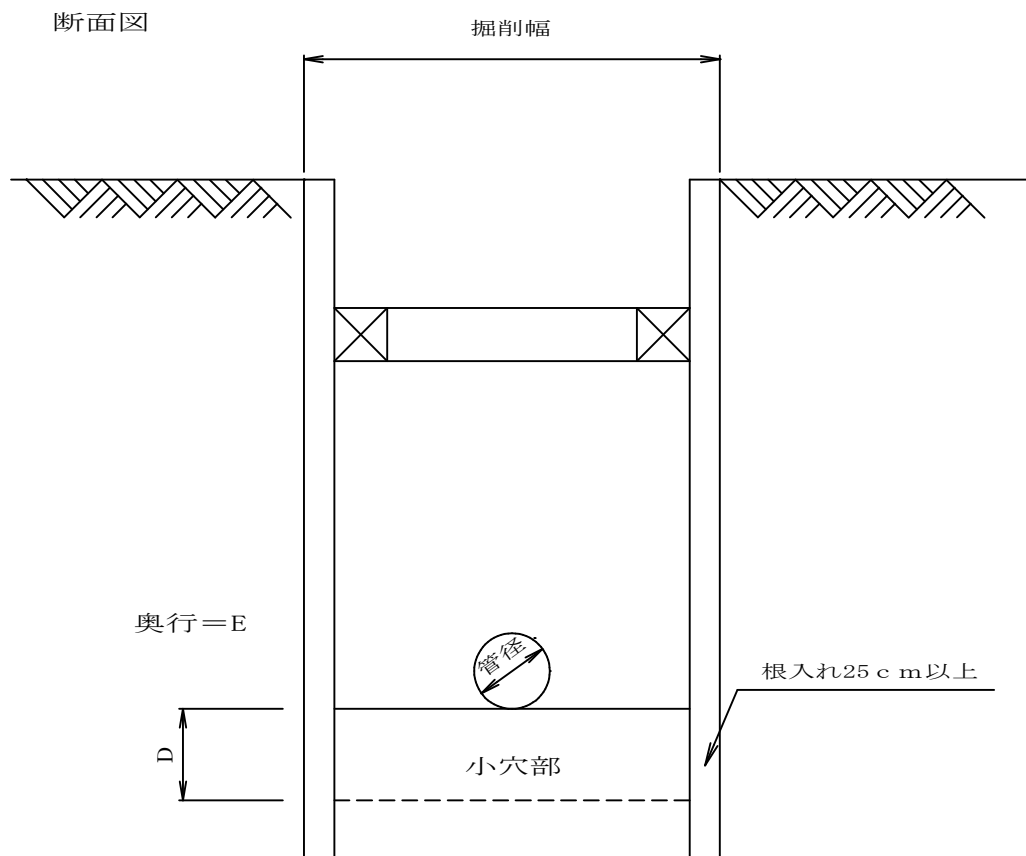
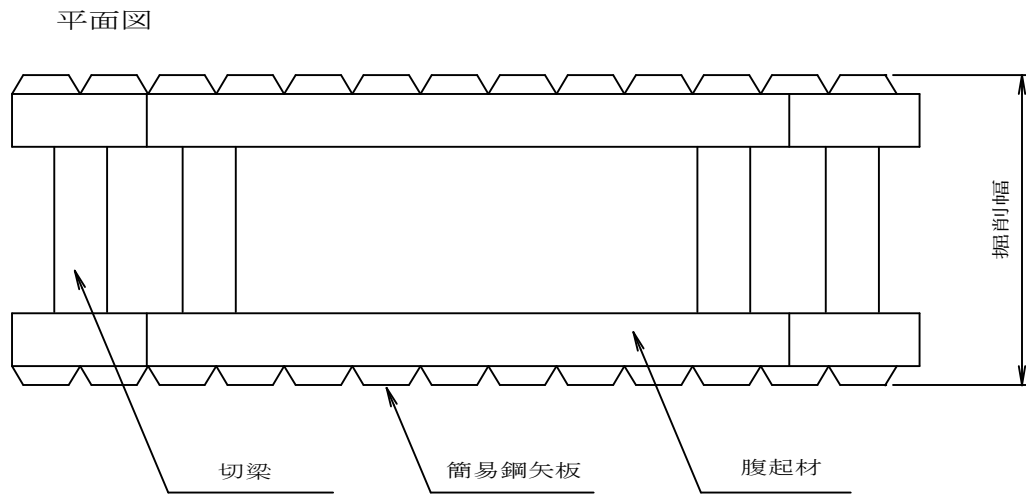
単位 : mm

管 径	$\phi 50 \cdot \phi 75$	$\phi 100$	$\phi 150$	$\phi 200$	$\phi 250$	$\phi 300$	$\phi 350$	$\phi 400$
掘削幅	700	700	800	800	900	900	1,000	1,100
小穴部	D	200		400			600	
	E	400		600			800	

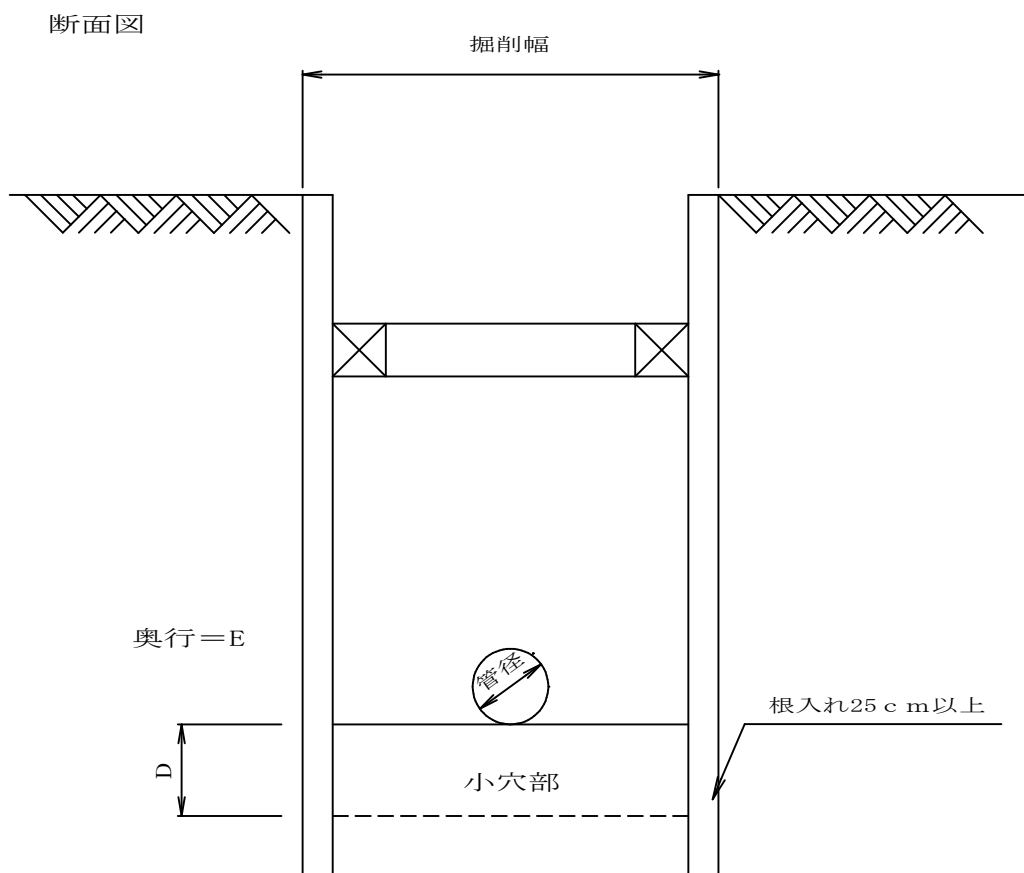
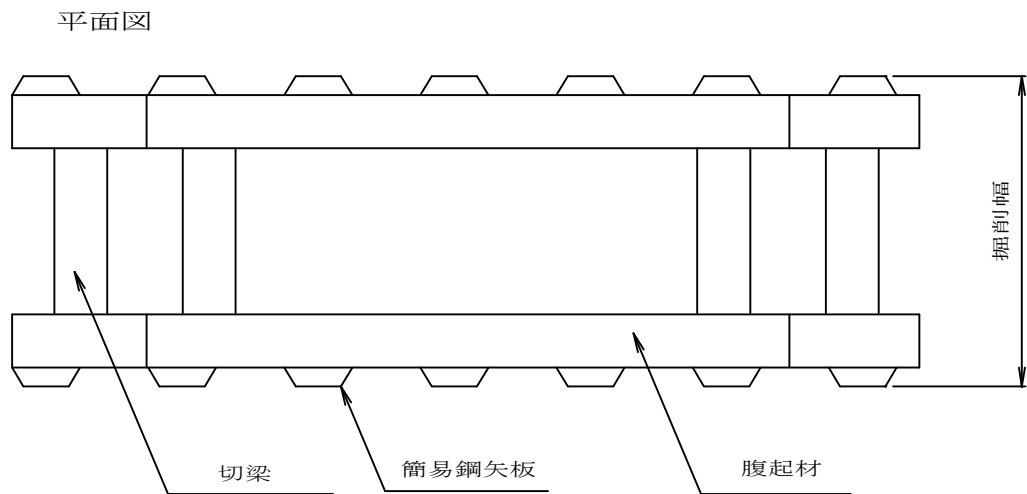
* 矢板を使用しない場合は 100mmを減ずる。

土留工設置例（参考図）

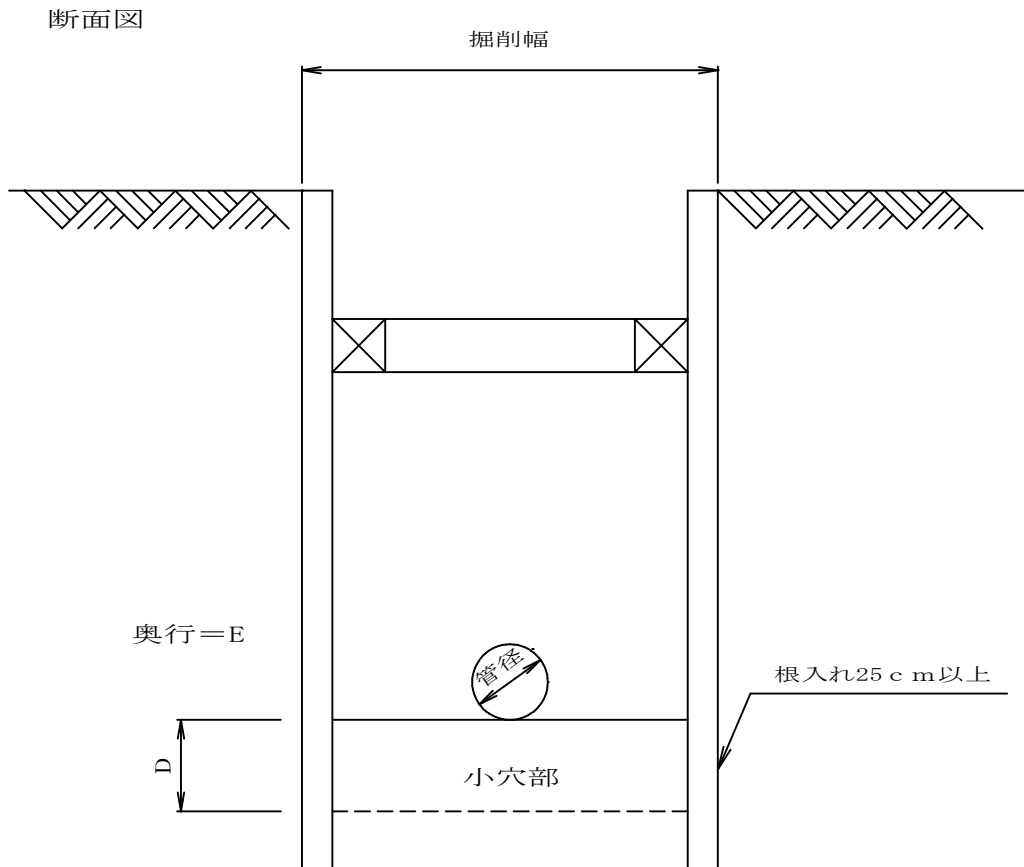
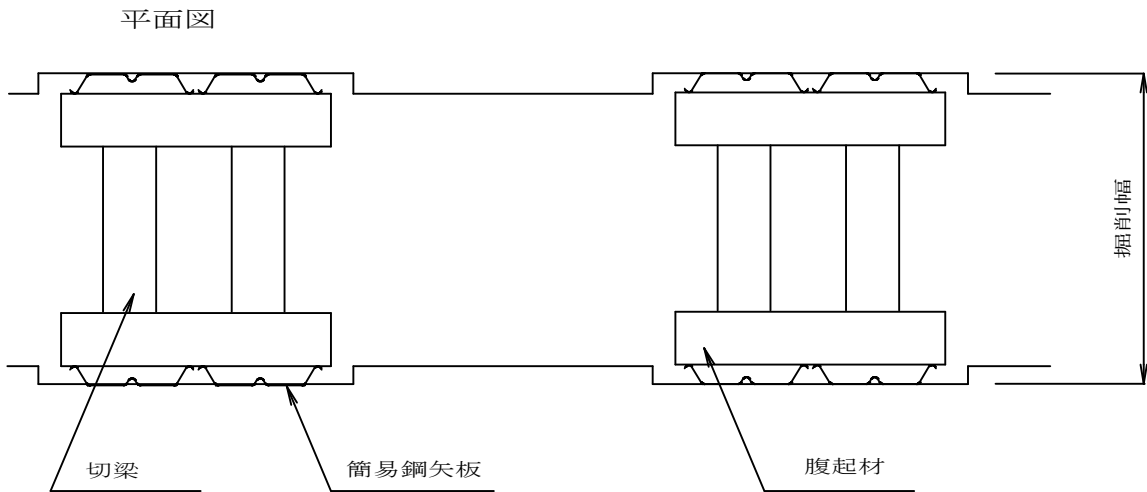
① 簡易鋼矢板たて込み（ベタ）



② 簡易鋼矢板たて込み (1枚おき)

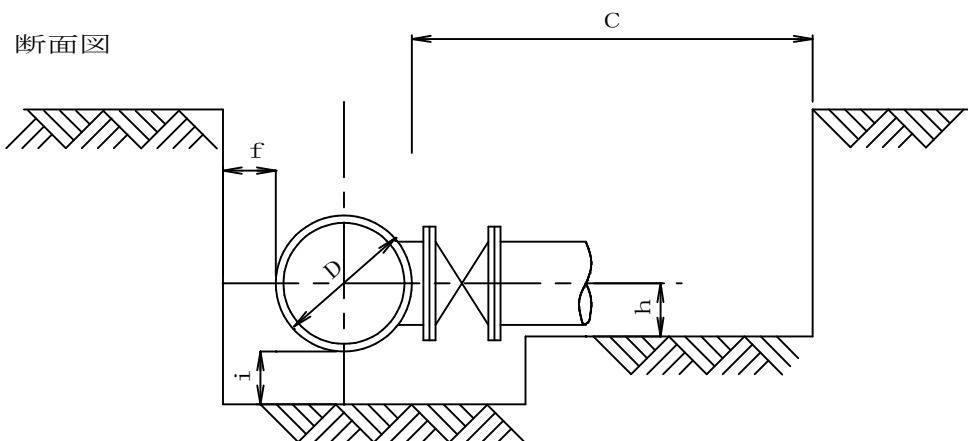
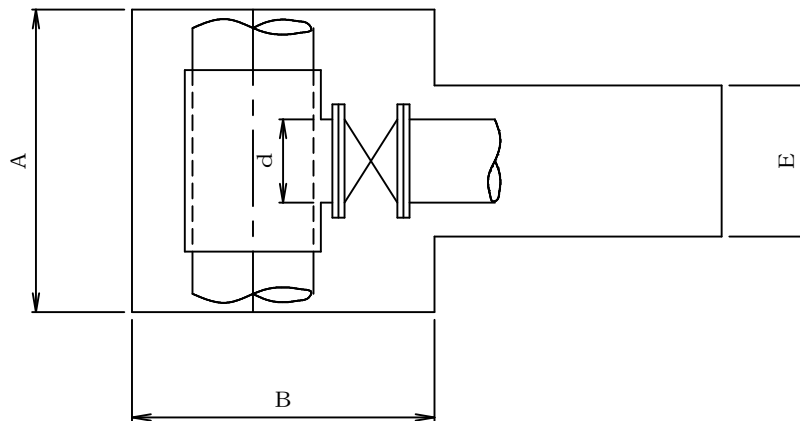


③ 簡易鋼矢板たて込み（接合部）



2) 不断水連絡工土工定規

平面図

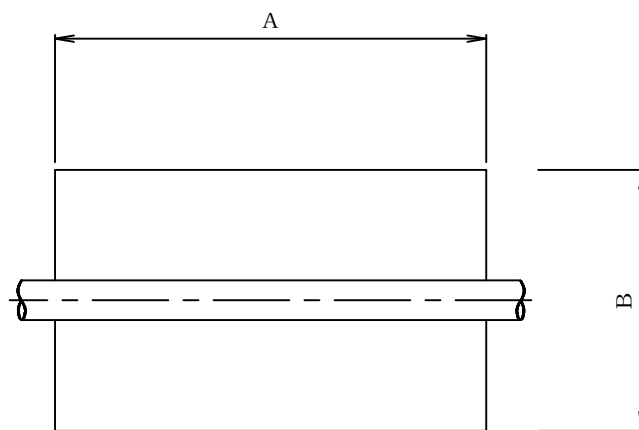


単位：mm

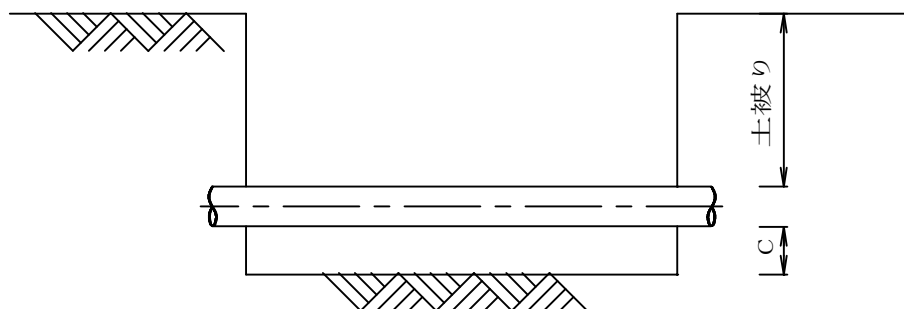
D	φ 50 ~ φ 100	φ 150 ~ φ 400	φ 75 ~ φ 100	φ 150 ~ φ 400	φ 300 ~ φ 400	φ 300 ~ φ 400
d	φ 50	φ 50	φ 75 ~ φ 100	φ 75 ~ φ 100	φ 200	φ 300 ~ φ 400
A	900	900	1,200	1,200	1,700	2,000
B	1,000	1,400	1,200	1,600	1,800	1,800
C	1,100	1,100	1,500	1,500	1,800	2,400
E	700	700	800	800	800	900
f	350	500	450	550	550	550
h	200	200	300	300	300	350
i	200	300	350	400	450	450

- 3) 断水連絡工土工定規
- 4) 仮配管連絡工土工定規
- 5) 栓設置工土工定規
- 6) 消火栓・空気弁設置撤去工土工定規
- 7) 仕切弁設置工土工定規
- 8) 分水止め工土工定規
- 9) 仕切弁撤去工土工定規
- 10) 仮設不断水止水栓設置撤去工土工定規

平面図



断面図



3) 断水連絡工土工定規

単位 : mm

既設口径	A	B	C
φ 50	2,000	1,000	200
φ 75			
φ 100			
φ 150			
φ 200			
φ 250	2,500	1,200	400
φ 300			
φ 350			
φ 400	2,800	1,400	600
φ 450			
φ 500			

4) 仮配管用連絡工土工定規

単位 : mm

既設口径	A	B	C
φ 50	1,500	1,000	200
φ 75			
φ 100			
φ 150			
φ 200			
φ 250	2,000	1,200	400
φ 300			

* φ 25mmの連絡については、φ 50mmを使用する。

5) 栓設置工土工定規

単位 : mm

既設口径	A	B	C
φ 50	1,500	1,000	200
φ 75			
φ 100			
φ 150			
φ 200			
φ 250	2,000	1,200	400
φ 300			
φ 350			
φ 400	2,000	1,400	600
φ 400			


6) 消火栓・空気弁設置撤去工土工定規

単位：mm

既設口径	A ¹	A ²	A ³	B ¹	B ²	B ³	C
φ 75	1,500	1,600	/	1,500	1,600	/	200
φ 100							
φ 150							
φ 200							
φ 250			400				
φ 300						1,700	1,700

A¹・B¹ ----- 単口消火栓・単口空気弁用

A²・B² ----- 双口消火栓・多排型空気弁付消火栓

A³・B³ ----- 双口空気弁・ 空気弁

7) 仕切弁設置工土工定規

単位：mm

既設口径	A	B	C
φ 75	2,000	1,000	200
φ 100			
φ 150			
φ 200	2,000	1,200	400
φ 250			
φ 300			
φ 350	2,500	1,400	600
φ 400			

8) 分水止め工土工定規

単位：mm

既設口径	A	B	C
φ 50～φ 150	1,000	1,000	200
φ 200～φ 400			400

9) 仕切弁撤去工土工定規

単位：mm

既設口径	A	B	C
φ 50	1,500	1,000	200
φ 75	2,000		
φ 100			
φ 150			
φ 200		1,200	400
φ 250			
φ 300			

10) 仮設不斷水止水栓設置

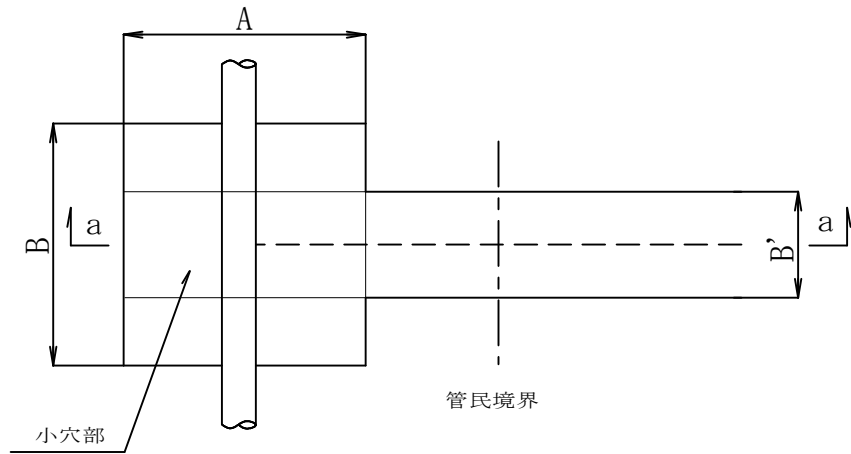
撤去工土工定規

単位：mm

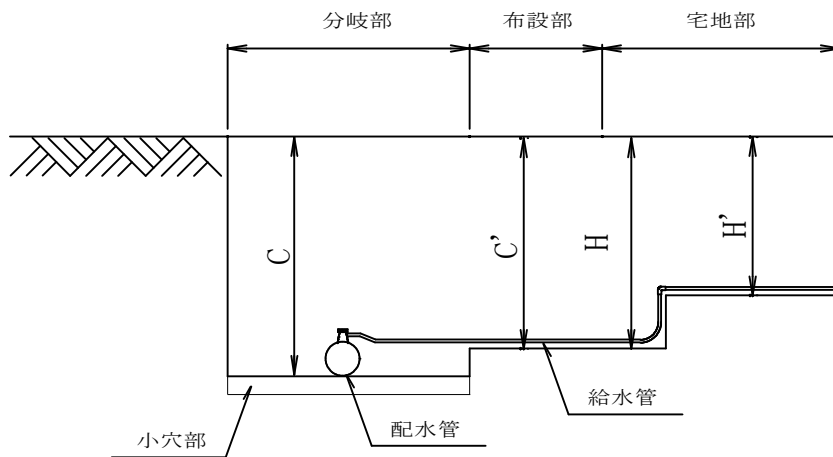
口径	A	B	C
φ 75	1,500	1,200	0.200
φ 100			
φ 150	1,700	1,500	0.250
φ 200			
φ 250	2,100	1,800	0.300
φ 300			

11) 鉛給水管单独更新土工定規

平面図



a-a 断面図



鉛給水管単独更新

単位：mm

配水管口径	車道部				
	分岐部			布設部	
	A	B	C	B'	C'
φ 50 ～ φ 400	1,000 (1,200)	1,000 (1,200)	既設配水管 の管底	600 (-)	1,250 (-)

- * A:長さ、B:幅、C:深さ
- * A欄及びB欄の () 数値は、引抜き工法時の寸法である。
- * C' は既設管深さにより定める。

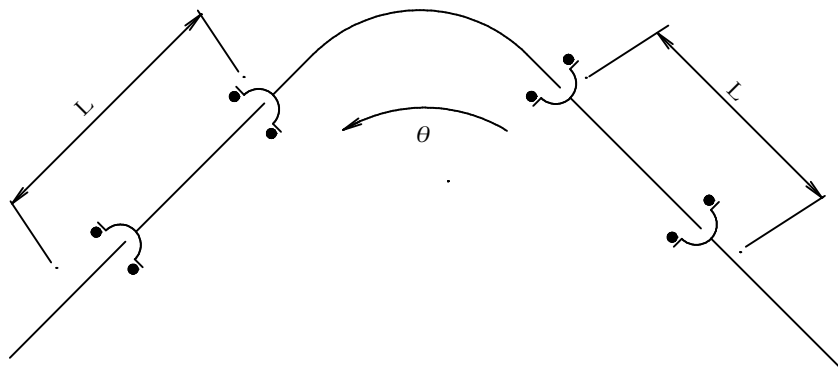
単位：mm

分岐口径	宅地部					
	引込み部			メーター部		
	A	B	H	A	B	H'
φ 20 φ 25 φ 40	1,000 (500)	600 (600)	1,250 (700)	1,000 (500)	600 (600)	350 (350)

- * A:長さ、B:幅、H:掘削底面までの深さ。
- * A欄、B欄及びH欄の () 数値は、引抜き工法時の寸法である。
- * 浅層埋設では、Hの値を別途考慮すること。
- H' は、既設管深さにより定める。

2. 抜き防止のための必要拘束長さ（T形の場合）

1) 水平曲管部



注) 組合せ曲管を使用の場合は合計で拘束長を判断する。

例 11°1/4 と 22°1/2 使用は 45° の拘束長に準ずる。

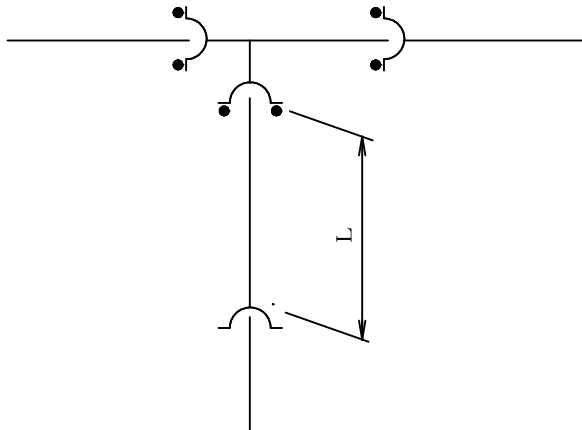
22°1/2 と 45° 使用は 90° の拘束長に準ずる。

L寸法

単位 : m

口径	90°		45°		22° 1/2		11° 1/4	
	土被り	角度	土被り	角度	土被り	角度	土被り	角度
φ 50	2.40	2.10	1.70	1.50	1.10	0.90	0.60	0.60
φ 75	3.10	2.70	2.10	1.90	1.40	1.20	0.80	0.70
φ 100	3.90	3.40	2.70	2.40	1.70	1.50	1.00	0.90
φ 150	5.50	4.70	3.70	3.30	2.30	2.10	1.40	1.20
φ 200	7.50	6.40	4.60	4.10	2.90	2.60	1.70	1.50
φ 300	10.80	9.40	6.70	5.70	4.00	3.60	2.30	2.10

2) T字管部



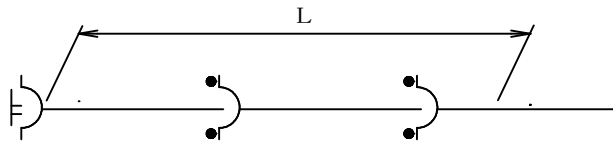
- * 将来丁字管の背面を掘さくされる場合を想定し
特殊押輪（離脱防止金具）を最低3個を使用すること。

L寸法

単位：m

口径	土被り	0.70	0.80
φ 50		3.60	3.20
φ 75		4.60	4.10
φ 100		5.70	5.10
φ 150		7.90	7.00
φ 200		10.00	8.90
φ 300		13.80	12.30

3) 栓・仕切弁部

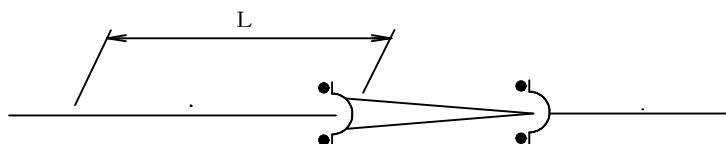


L寸法

単位 : m

口径 \ 土被り	0.70	0.80
φ 50	3.60	3.20
φ 75	4.60	4.10
φ 100	5.70	5.10
φ 150	7.90	7.00
φ 200	10.00	8.90
φ 300	13.80	12.30

4) 片落管部



L寸法

単位：m

口 径 \ 土被り	0.70	0.80
φ 200 × φ 100	7.70	6.90
φ 250 × φ 100	9.90	8.80
φ 250 × φ 150	8.70	7.80
φ 300 × φ 150	10.90	9.70
φ 300 × φ 200	9.60	8.50
φ 350 × φ 200	11.80	10.60
φ 350 × φ 250	10.30	9.20

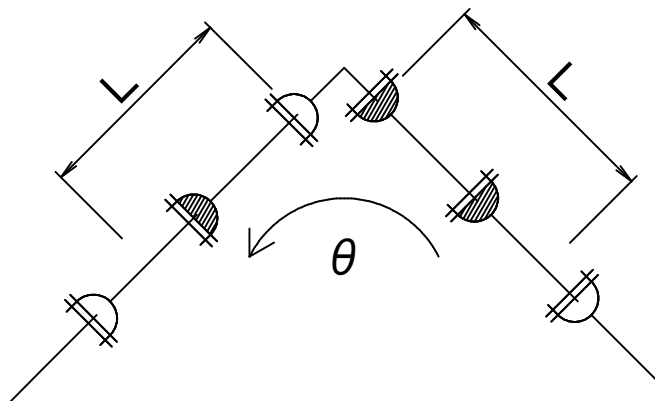
5) 使用上の注意事項

- ① この数値は管内水圧に対する特殊押輪（離脱防止金具）の保持力を計算したものであって振動・地盤の不等沈下、その他の予測し得ない荷重等は考慮していないので、これらに対しては別に考慮すること。
- ② 仮定水圧（0.74MPa）以上の水圧が予想される管路については別に考慮すること。
- ③ 土被りが0.7m以下の場合、特殊押輪（離脱防止金具）の使用数を増すか、別の防護方法を考慮すること。
- ④ 異形管に取付ける直管はできるだけ切管しないものを使用すること。
- ⑤ 仕切弁設置ヶ所等で、現場施工上必要な場合は、別に考慮すること。

3. NS形・GX形の一体化長さについて

ここでは、標準的な一体化長さについて記載しており詳細については、日本ダクタイル鉄管協会の「NS形・SⅡ形・S形ダクタイル鉄管管路の設計」及び「GX形ダクタイル鉄管管路の設計」によること。

1) 曲管部



【呼び径 75～300】

呼び径 (mm)	土被り 0.7 以上		
	水圧 1.3 MP a		
	22.5° 以下	22.5° を超え 45° 以下	45° を超え 90° 以下
φ 75	1.0m	1.0m	4.0m
φ 100			5.0m
φ 150			6.0m
φ 200			8.0m
φ 300	2.0m	7.0m	16.0m

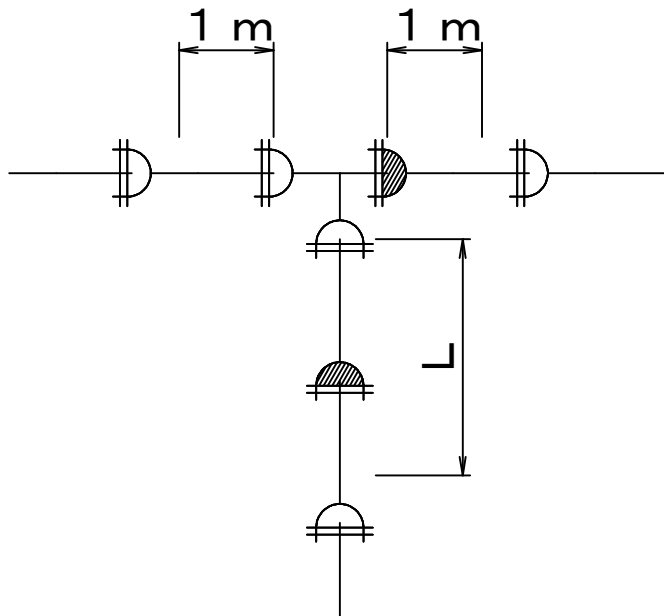
【呼び径 400】

土被り	土被り 0.7 以上		
	水圧 1.3 MP a		
	22.5° 以下	22.5° を超え 45° 以下	45° を超え 90° 以下
1.2m	2.0m	7.0m	17.0m
1.5m			15.0m

注意

- 1 一体化長さに異形管の長さは含めないものとする。
- 2 単独曲管部では曲管の両側に一体化長さを確保する。

2) T字管部



【呼び径 75 ~ 300】

呼び径 (mm)	土被り 0.7 以上
	水圧 1.3 MP a
φ 75	1.0 m
φ 100	
φ 150	
φ 200	6.0 m
φ 300	
	13.0 m

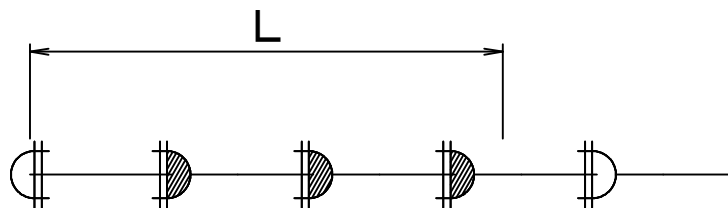
【呼び径 400】

枝管側 呼び径	土被り 1.2 m	土被り 1.5 m
	水圧 1.3 MP a	水圧 1.3 MP a
φ 300	12.0 m	10.0 m
φ 400	16.0 m	15.0 m

注意

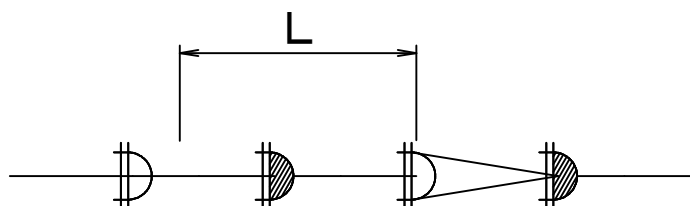
- 1 一体化長さに異形管の長さは含めないものとする。
- 2 本管側の一体化長さは呼び径によらず両側とも 1 m とする。
- 3 呼び径 400 の場合で、枝管が呼び径 300 より小さい場合は、呼び径 75 ~ 300 の表を用いる。

3) 栓・仕切弁部



呼び径	水圧 1.3MP a				
	土 被 り				
	0.6m	0.8m	1.0m	1.2m	1.5m
φ 75	12.5m	9.5m	8.0m	6.5m	5.5m
φ 100	15.5m	12.0m	9.5m	8.0m	6.5m
φ 150	21.0m	16.5m	13.5m	11.5m	9.5m
φ 200	26.5m	20.5m	17.0m	14.5m	12.0m
φ 300	36.0m	28.5m	24.0m	20.5m	16.5m
φ 400	—	—	—	25.5m	21.5m

4) 片落管部

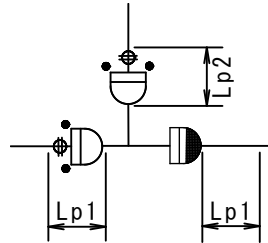


呼び径		水圧 1.3MP a				
		土 被 り				
大管	小管	0.6m	0.8m	1.0m	1.2m	1.5m
φ 100	φ 75	6.0m	4.5m	4.0m	3.5m	2.5m
φ 150	φ 100	11.0m	8.5m	7.0m	6.0m	5.0m
φ 200	φ 100	19.0m	15.0m	12.0m	10.5m	8.5m
	φ 150	11.0m	8.5m	7.0m	6.0m	5.0m
φ 300	φ 100	31.5m	25.0m	20.5m	17.5m	14.5m
	φ 150	26.5m	21.0m	17.5m	15.0m	12.0m
	φ 200	19.5m	15.5m	13.0m	11.0m	9.0m
φ 400	φ 150	—	—	—	21.5m	18.0m
	φ 200	—	—	—	19.0m	15.5m
	φ 300	—	—	—	11.0m	9.0m

4. S50形の一体化長さについて

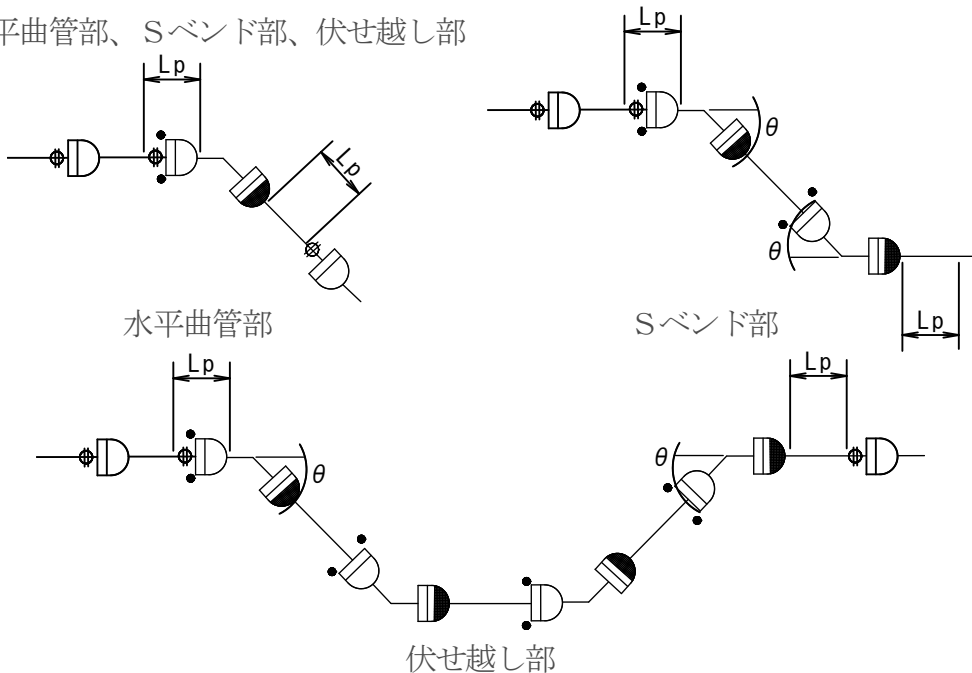
ここでは、標準的な一体化長さについて記載しており詳細については、日本ダクタイル鉄管協会の「S50形ダクタイル鉄管管路の設計」によること。

1) 水平T字部



呼び径(mm)		土被り 0.6m 以上	
		水圧 (MPa)	
		1.3	
本管	枝管	Lp1	Lp2
$\phi 50 \sim \phi 250$	$\phi 50$	1.0m	1.0m

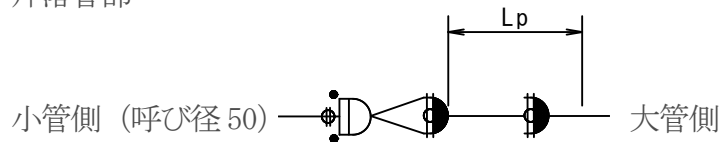
2) 水平曲管部、Sベンド部、伏せ越し部



曲管部の一体化長さ

曲管角度 θ	呼び径 (mm)	土被り 0.6m 以上	
		水圧 (MPa)	
		1.3	
45° を越え 90° 以下	$\phi 50$	1.0m	
22.5° を越え 45° 以下		1.0m	
22.5° 以下		1.0m	

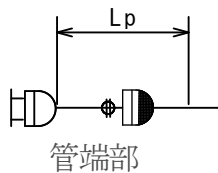
3) 片落管部



呼び径 (mm)		土被り 0.6m	土被り 0.8m	土被り 1.0m	土被り 1.2m	土被り 1.4m
		水圧 (MPa)	水圧 (MPa)	水圧 (MPa)	水圧 (MPa)	水圧 (MPa)
大管	小管	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
φ 75	φ 50	6.0m	4.5m	3.5m	3.0m	3.0m

備考 1) 土被りは大管側とした。

4) 管端部

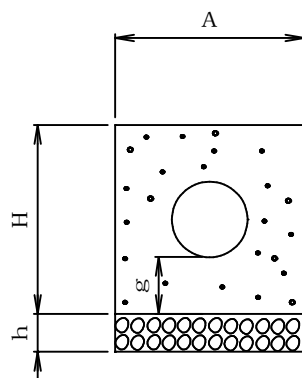


呼び径 (mm)		土被り 0.6m	土被り 0.8m	土被り 1.0m	土被り 1.2m	土被り 1.4m
		水圧 (MPa)	水圧 (MPa)	水圧 (MPa)	水圧 (MPa)	水圧 (MPa)
		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
φ 50		9.5m	7.5m	6.0m	5.0m	4.5m

※仕切弁はφ75mmを使用するため、仕切弁部は仕切弁の継手毎の一体化長さに従う。

5. コンクリート防護工

1) 連続防護工

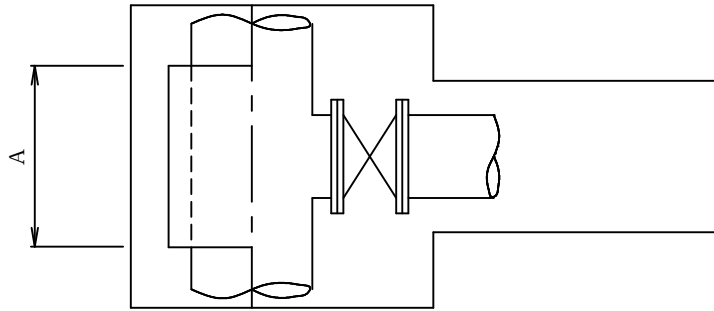


単位 : mm

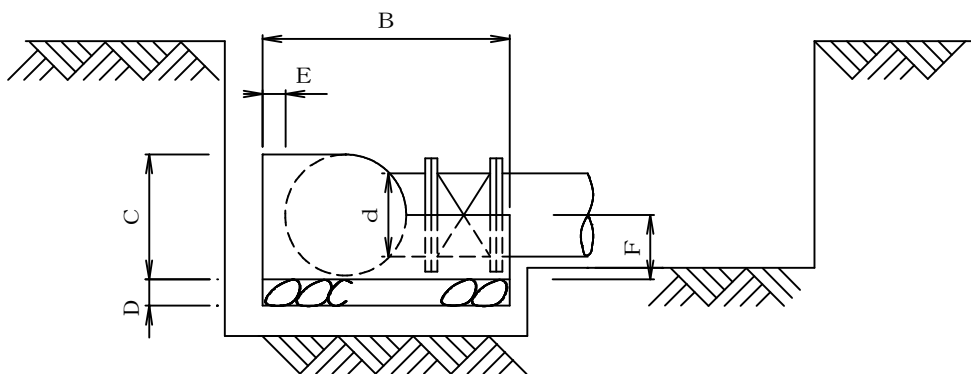
口 径	A	g	H	h	コンクリート (m^3)	碎石基礎 (m^3)	型枠 (m^2)
φ 75	300	150	290	150	0.08	0.05	0.6
φ 100	320	〃	310	〃	0.09	〃	〃
φ 150	370	〃	360	〃	0.11	0.06	0.7
φ 200	430	〃	410	〃	0.14	〃	0.8
φ 250	520	〃	465	〃	0.18	0.08	0.9
φ 300	620	〃	520	〃	0.24	0.09	1.0
φ 350	720	〃	570	〃	0.30	0.11	1.1
φ 400	1300	300	900	200	1.03	0.26	1.8

2) 不断水連絡工防護図

平面図



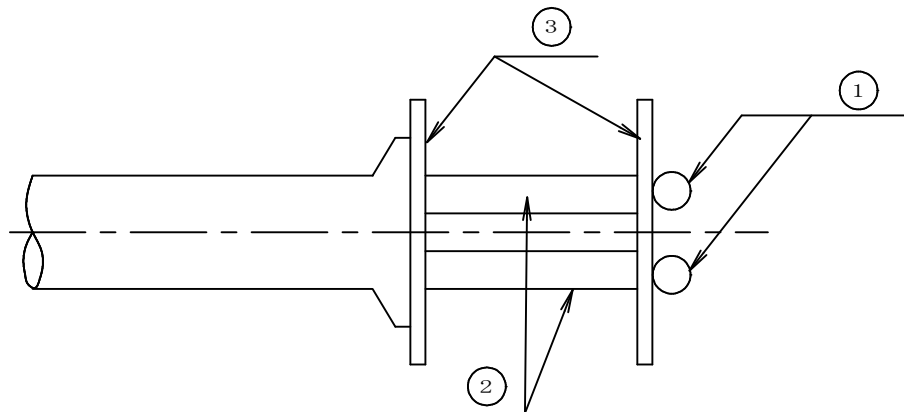
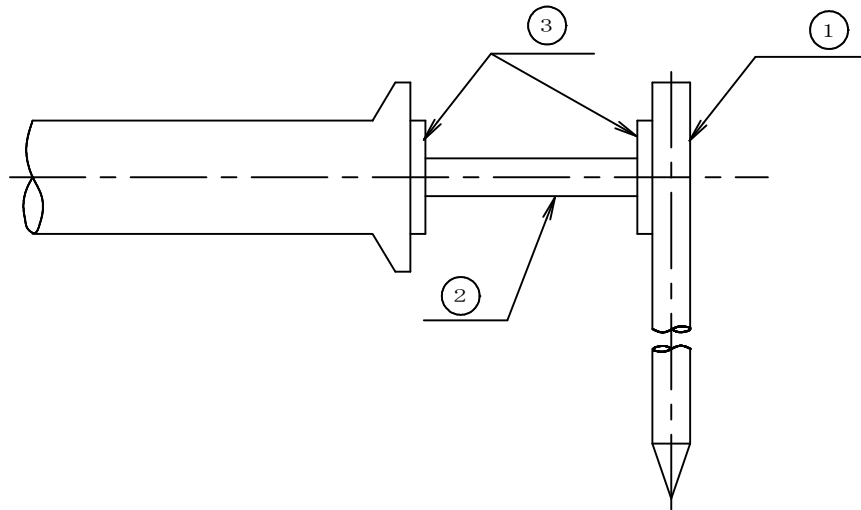
断面図



単位：mm

分岐口径 (d)	φ 200	φ 300～ φ 400
A	800	900
B	1, 100	1, 200
C	550	550
D	150	150
E	200	200
F	350	350

6. 栓防護工（耐震管は除く）



生松杭寸法表

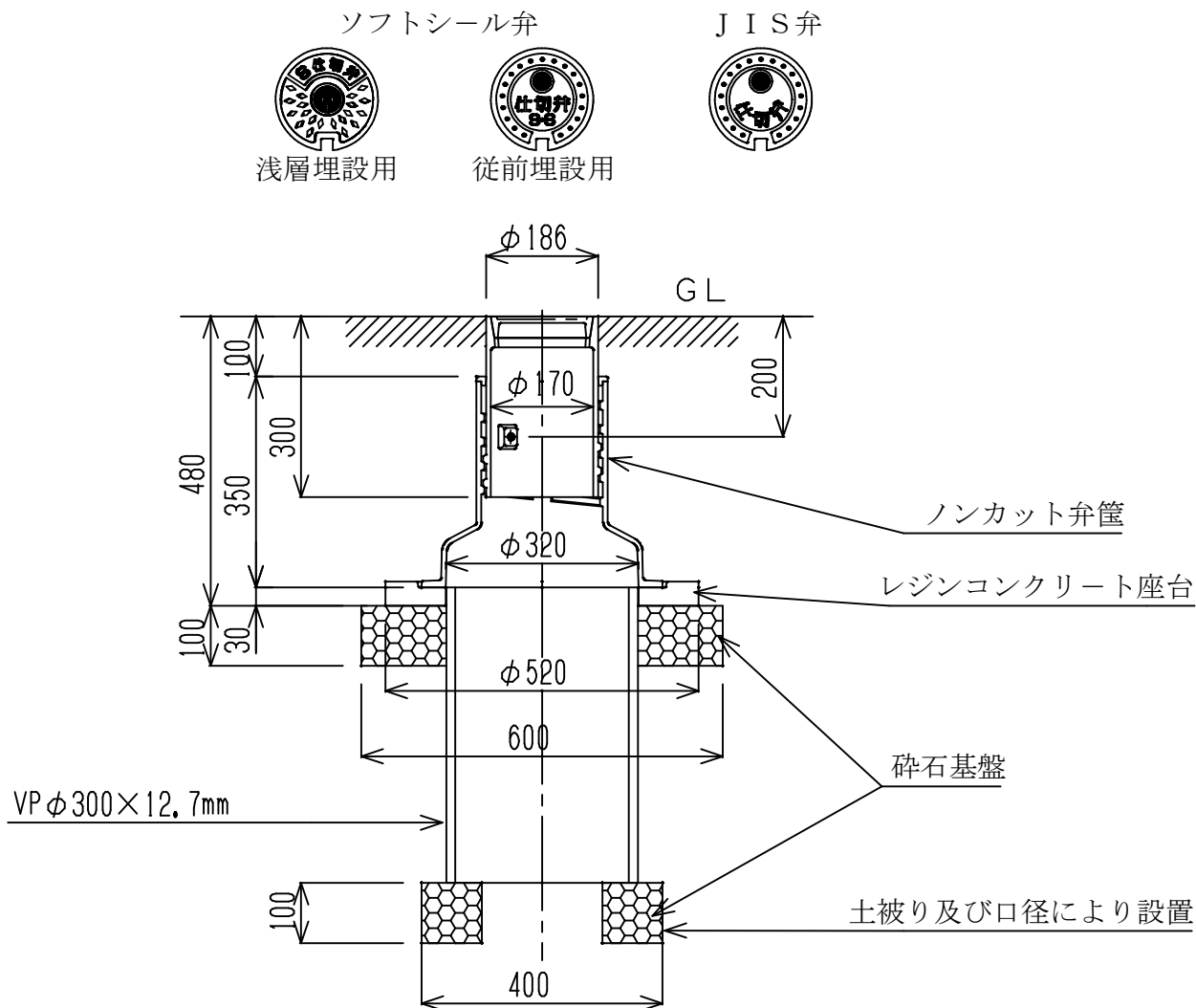
	① 松 杭	② 切 梁	③ 松厚板	カスガイ
φ 50～ φ 150	末口9cm×1.5m 2本	末口9cm×0.5m 2本	3.0cm×21cm×0.7m 2本	φ 9×150 12本

- * 現地の土質状況により検討すること。
- * φ 200以上では既設管からの反力・既設管への離脱防止金具の設置等について別途検討すること。
- * φ 50施工は栓防護は不要とする。

7. 仕切弁筐設置工

1) ノンカット式仕切弁筐（ソフトシール弁）

弁 筐 蓋 図

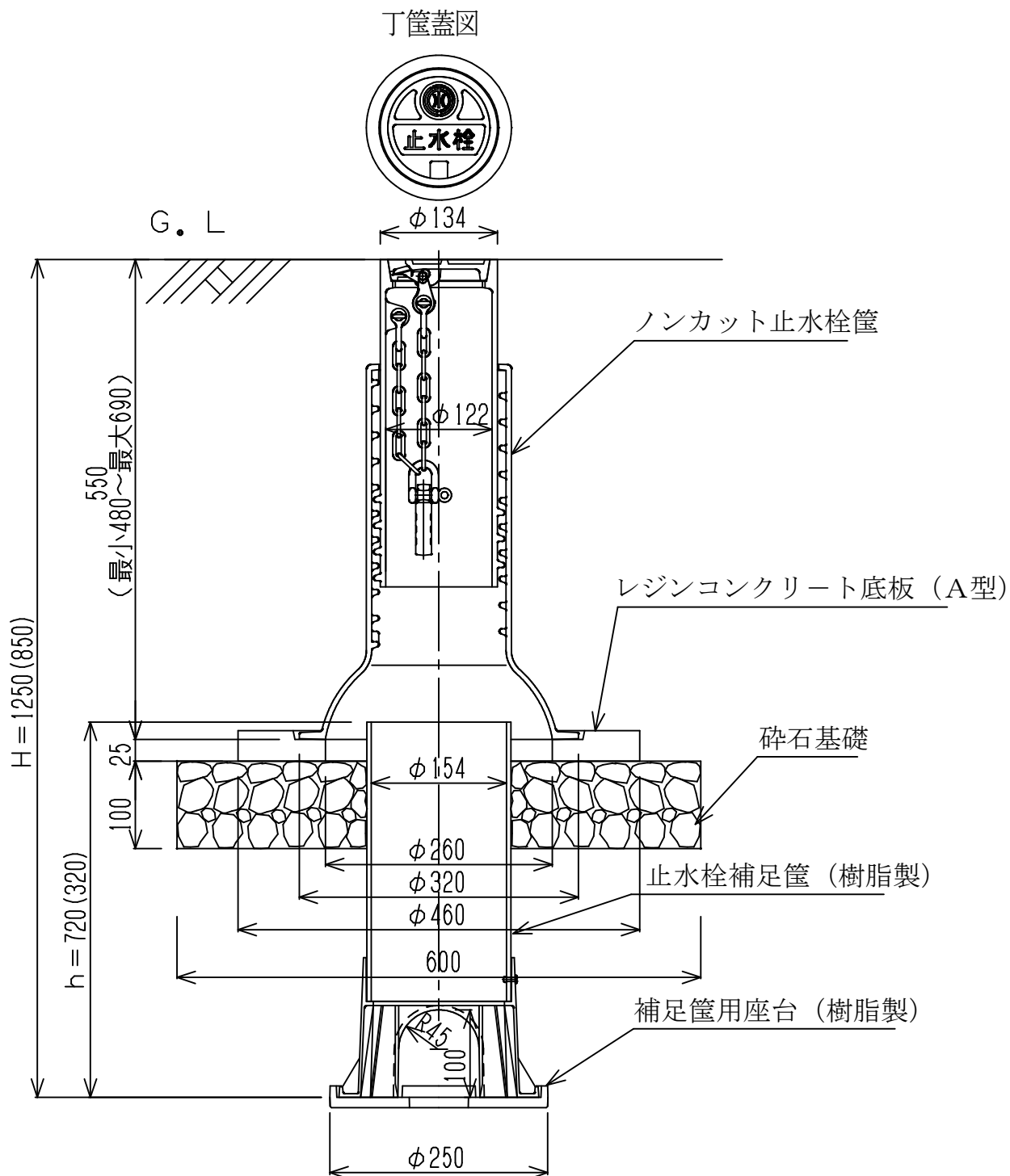


材 料 表

1ヶ所当り

名 称	形状及び寸法	単位	員 数	摘 要
制水弁筐	ノンカット式	ヶ	1	鋳鉄製
硬質塩ビ管	VP φ 300×12.7mm	ヶ	1	VP φ 300
レジン コンクリート 座 台	φ 520	ヶ	1	圧縮強度 9000 (N/cm ²) 以上
砕石基礎	砕石クラッシュラン 0~40	m ³	0.03 (0.02)	() 内は φ 250~φ 350

2) 止水栓丁籠設置工

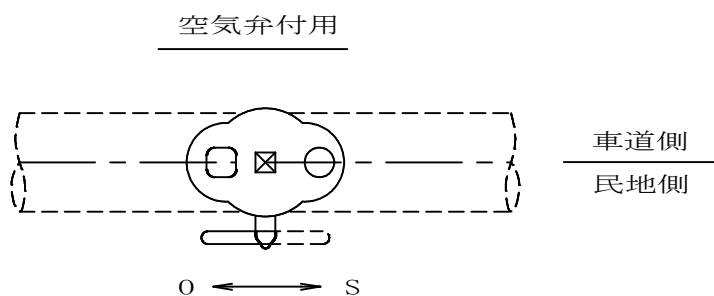
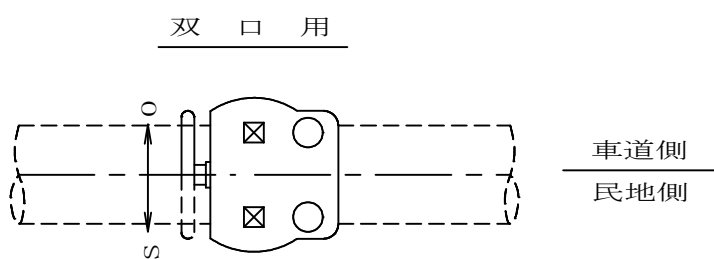
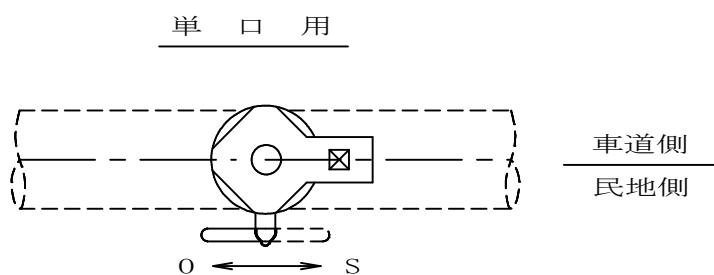
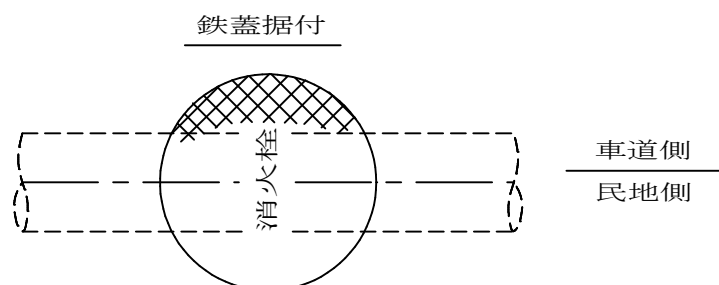


材料表

名称	形状及び寸法	単位	員数	摘要
止水栓籠	ノンカット式 (丁)	ヶ	1	鋳鉄製
止水栓補足籠	L = 720又はL = 320	ヶ	1	樹脂製
レジンコンクリート座台 (A型)	$\phi 460$	ヶ	1	圧縮強度 9000 (N/cm ²) 以上
補足籠用座台	$\phi 250$	ヶ	1	樹脂製
砕石基礎	砕石クラッシャーラン 0~40	m ³	0.03	目潰含む

8. 消火栓・排水施設据付図

1) 消火栓用鉄蓋及び補修弁据付図

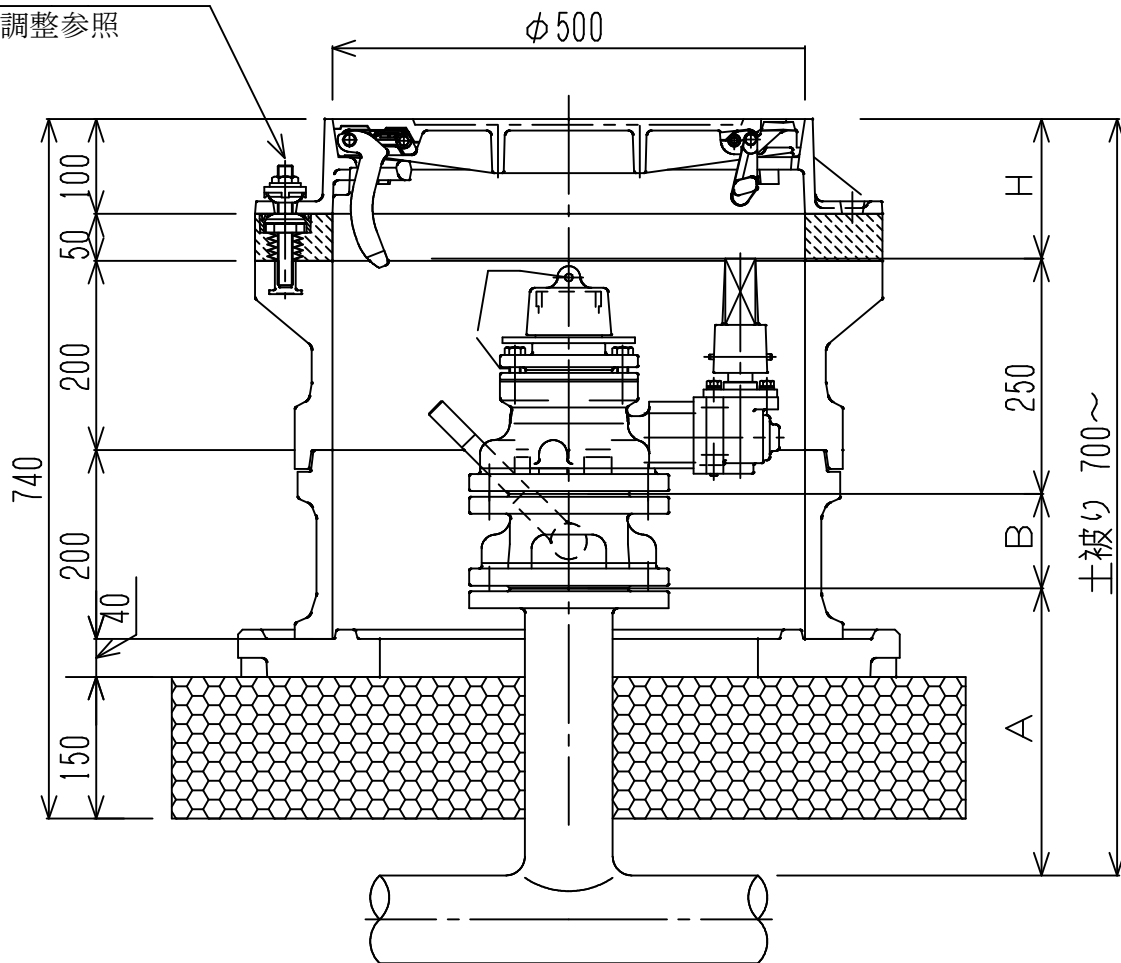


2) 単口消火栓据付図

(レジコン製)

単 口

受枠変形防止用高さ調整駒
蓋の高さ調整参照



※H = 150 mm ~ 250 mmの間とする。

※原則としてうず巻式フランジ付T字管を使用する。

※消火栓は各製造メーカーにより製品高さが異なるので、計算の上キャップ深さを確認する。

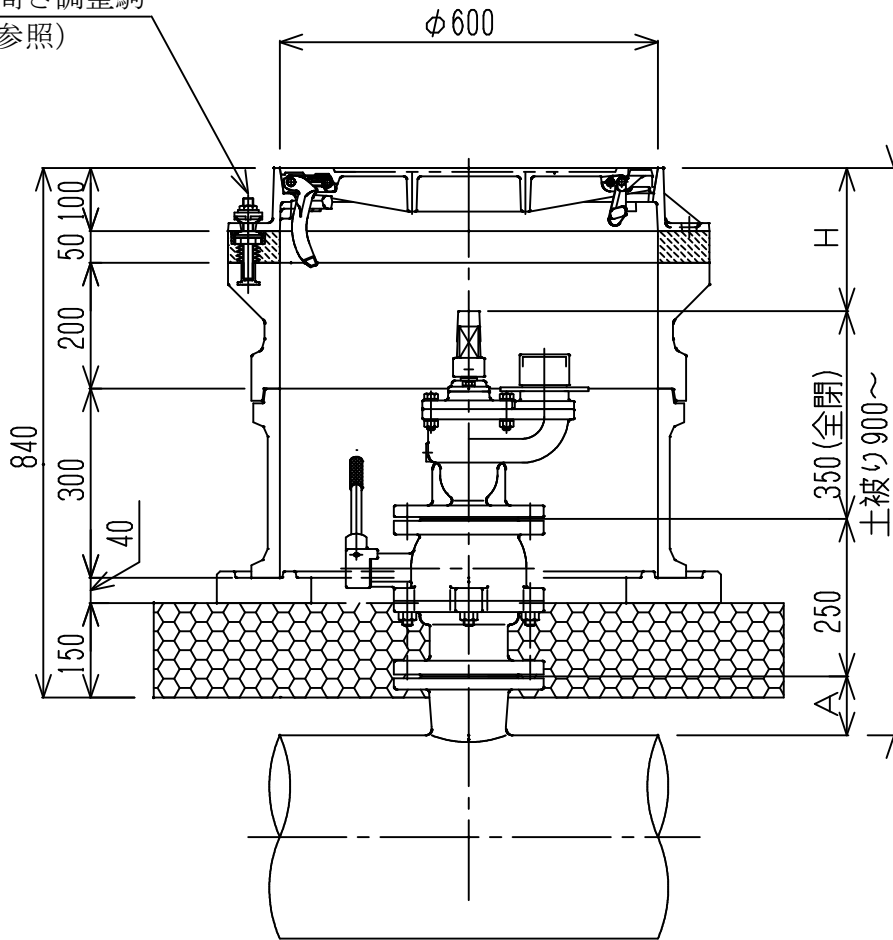
※土被り700の場合は、管に碎石が直接かからないように管の上部の碎石厚を調節する。

3) 双口消火栓据付図

(レジコン製)

双 口

受枠変形防止用高さ調整駒
(蓋の高さ調整参照)



※H=150mm~250mmの間とする。
※補修弁レバーが埋没しないよう設置すること。

(単位: mm)

呼び径	型式 寸法	NS 型		備 考
		A	H	
φ 300 × φ 100		137.5	162.5	
φ 350 × φ 100		137.0	163.0	フランジ短管 L=300を使用
φ 400 × φ 100		136.0	164.0	フランジ短管 L=300を使用

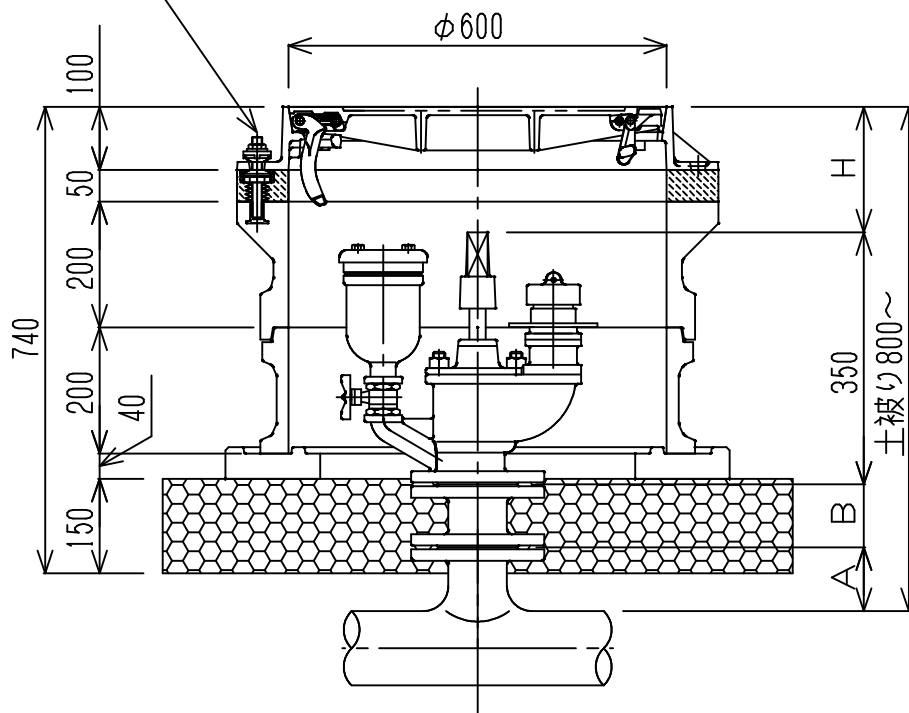
※補修弁 L=250を使用した場合。

※φ 350, φ 400は、土被り H=1200とする。

4) 空気弁付消火栓据付図

(レジコン製)

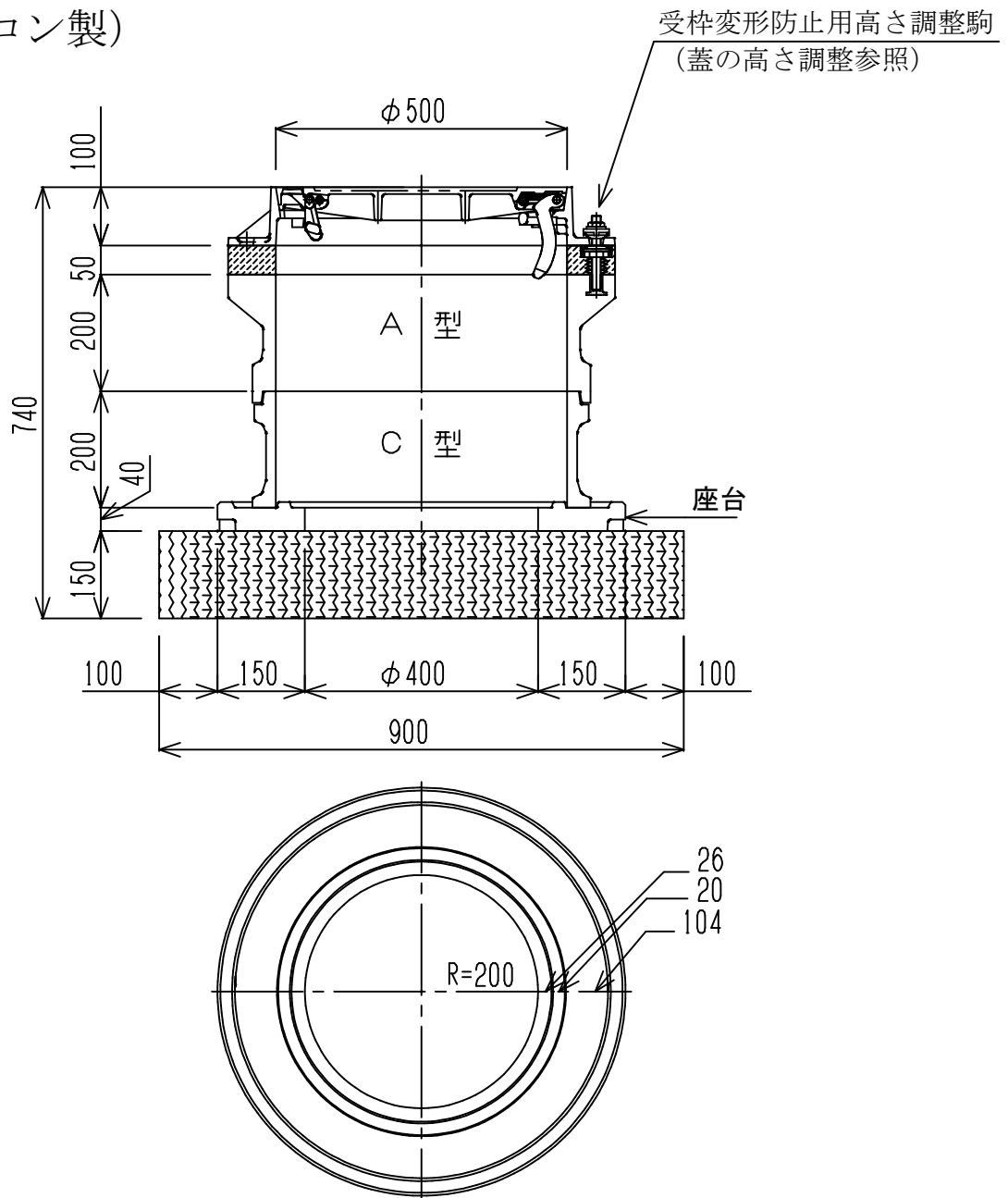
受枠変形防止用高さ調整駒
(蓋の高さ調整参照)



- ※ H = 150 mm ~ 250 mmの間とする。
- ※ 原則として浅層用フランジ付T字管を使用する。
- ※ 空気弁付消火栓は、各製造メーカーにより製品高さが異なるので、計算の上キャップ深さを確認する。
- ※ 補修弁を設置する際は、補修弁レバーが埋設しないよう設置すること。

5) 単口消火栓・単口空気弁室築造図

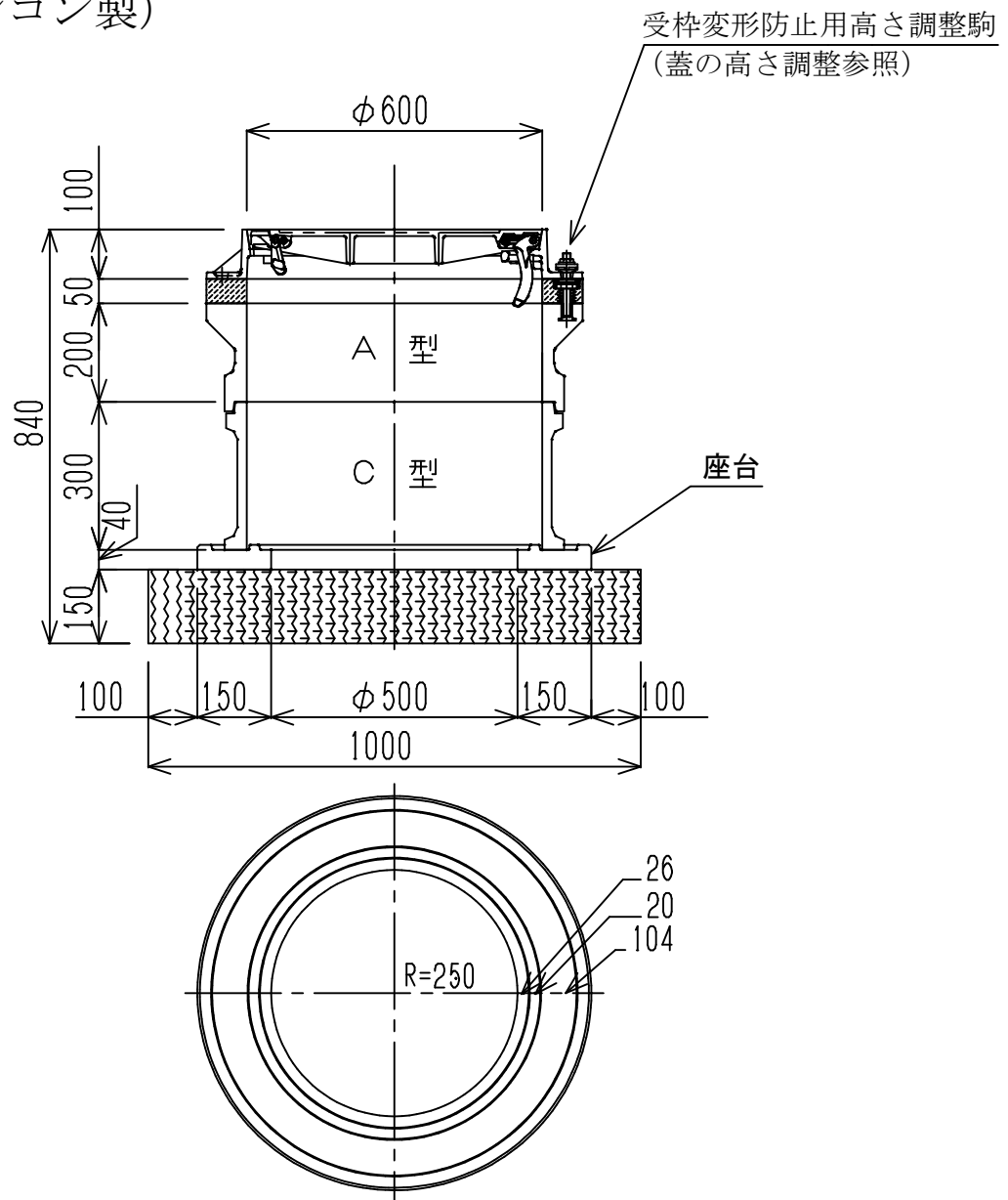
(レジコン製)



名 称	形状及び寸法	単 位	員 数	摘 要
消火栓用土留	φ500×200 (C型)	ヶ	1	
"	φ500×200 (A型)	ヶ	1	
消火栓用座台	φ700×40	ヶ	1	φ500用
無収縮モルタル	φ500×50	ヶ	1	25Kg
調整金具一式	M16×150	ヶ	1	調整駒・防護スリーブ
消火栓用鉄蓋	ダクタイル鋳鉄製丸型	組	1	
砕石基礎	砕石クラッシャーラン0~40	m ³	0.1	

6) 双口消火栓室築造図

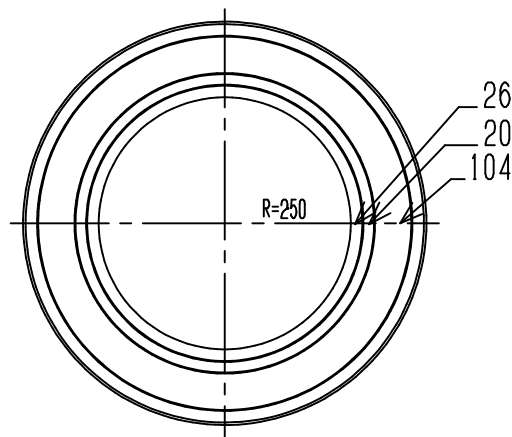
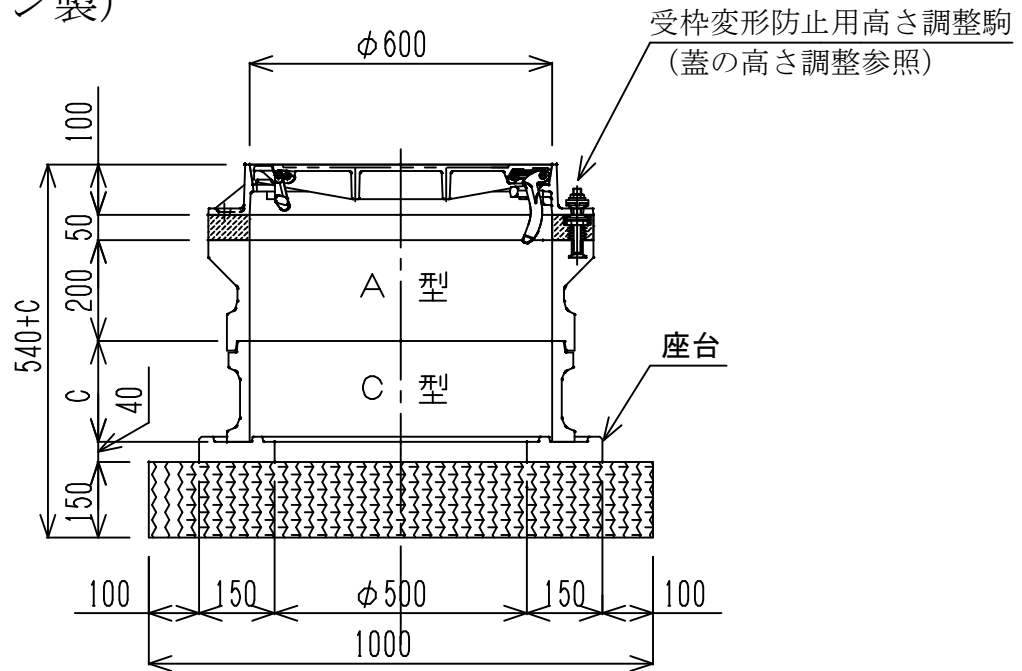
(レジコン製)



名 称	形状及び寸法	単位	員 数	摘 要
消火栓用土留	φ 600×300 (C型)	ヶ	1	
〃	φ 600×200 (A型)	ヶ	1	
消火栓用座台	φ 800×40	ヶ	1	φ 600用
無収縮モルタル	φ 600×50	ヶ	1	25kg
調整金具一式	M16×150	ヶ	1	調整駒・防護スリーブ
消火栓用鉄蓋	ダクタイル鋳鉄製丸型	組	1	
砕石基礎	砕石クラッシャーラン0~40	m ³	0.12	

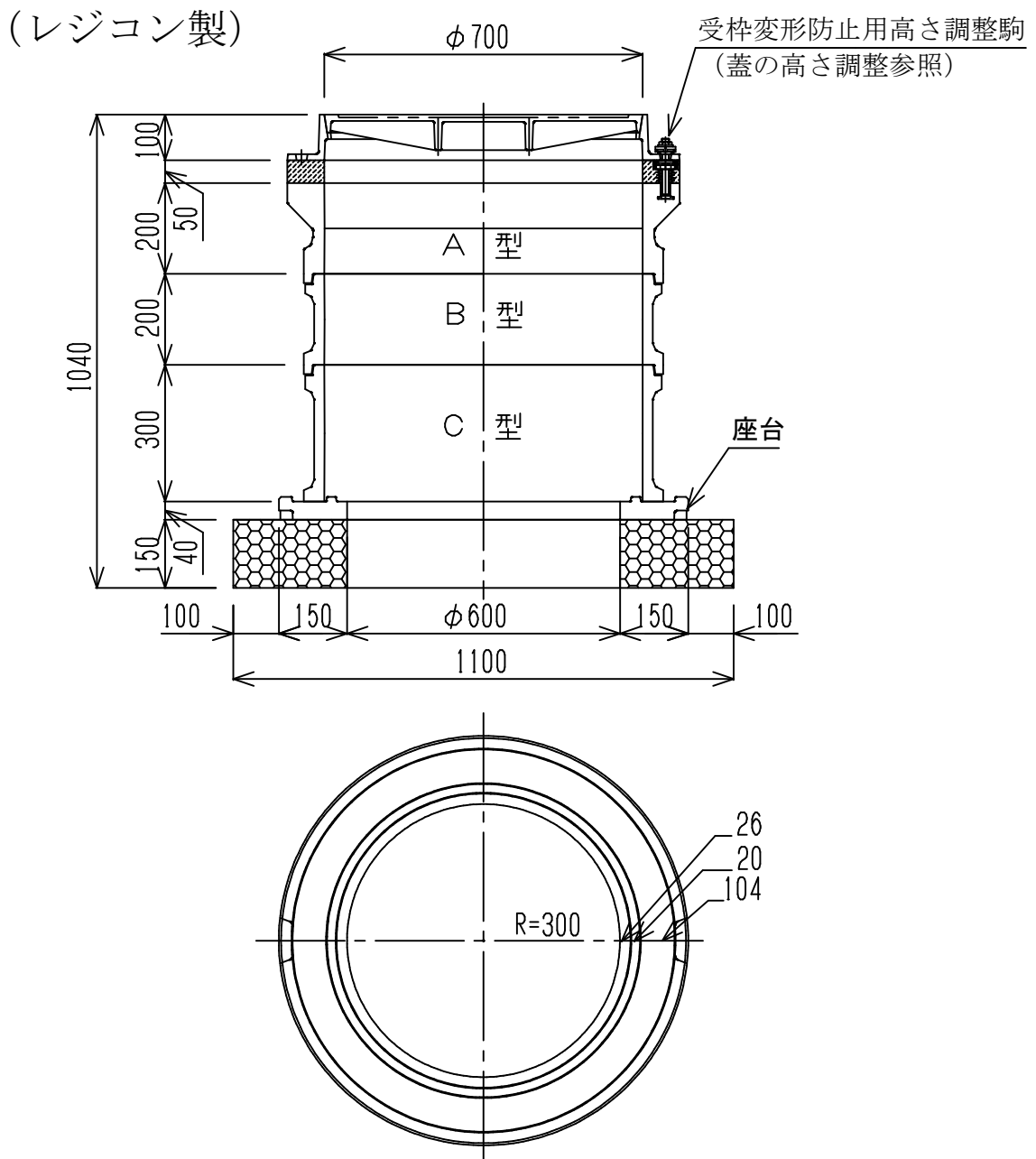
7) 空気弁付消火栓室築造図

(レジコン製)



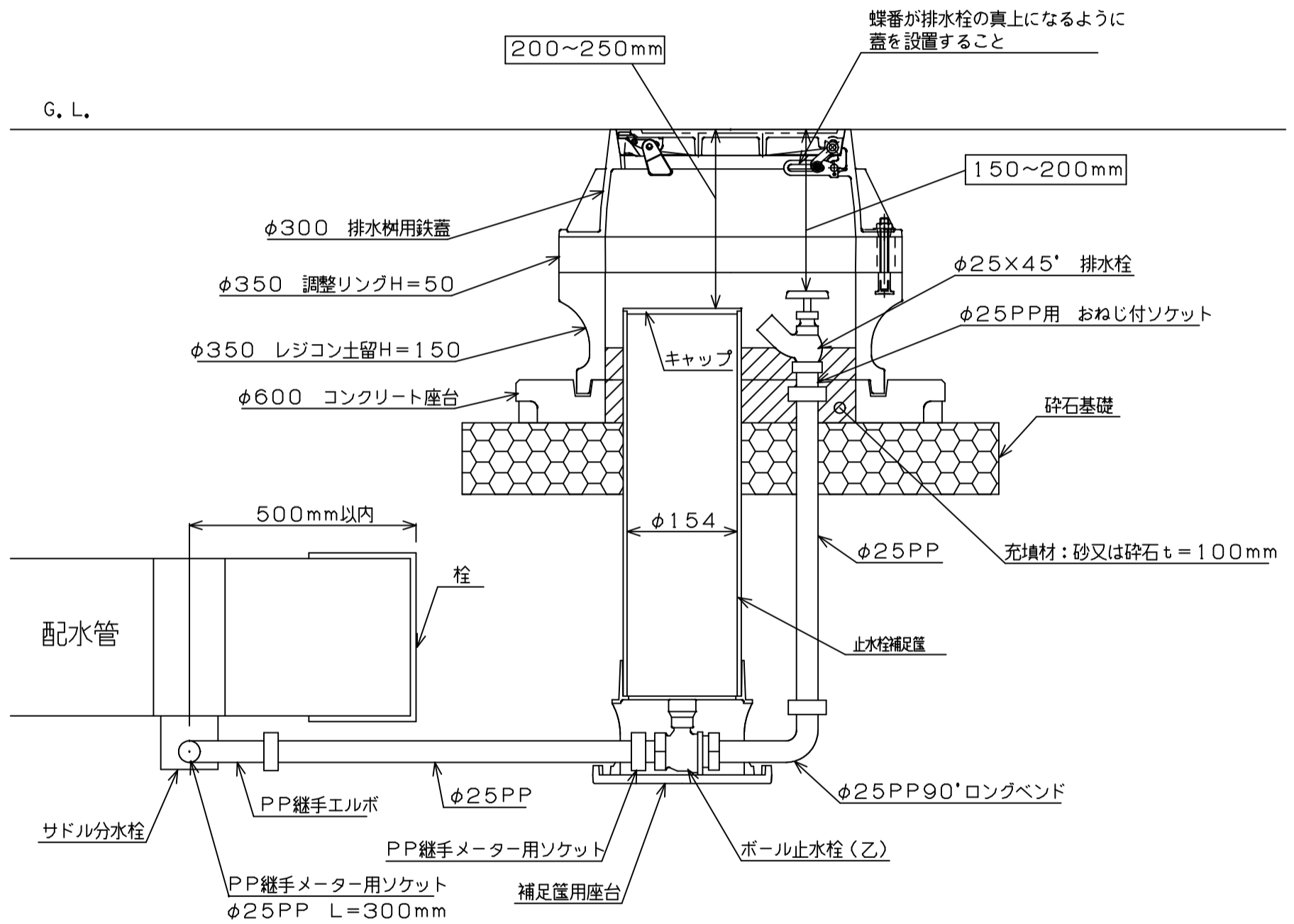
名 称	形状及び寸法	単位	員 数	摘 要
消火栓用土留	φ 600× C (C型)	ヶ	1	
”	φ 600× 200 (A型)	ヶ	1	
消火栓用座台	φ 800× 40	ヶ	1	φ 600用
無収縮モルタル	φ 600× 50	ヶ	1	25kg
調整金具一式	M16× 150	ヶ	1	調整駒・防護スリーブ
消火栓用鉄蓋	ダクタイル鋳鉄製丸型	組	1	
砕石基礎	砕石クラッシャーレン0~40	m ³	0.12	

8) 双口空気弁・急速空気弁室築造図



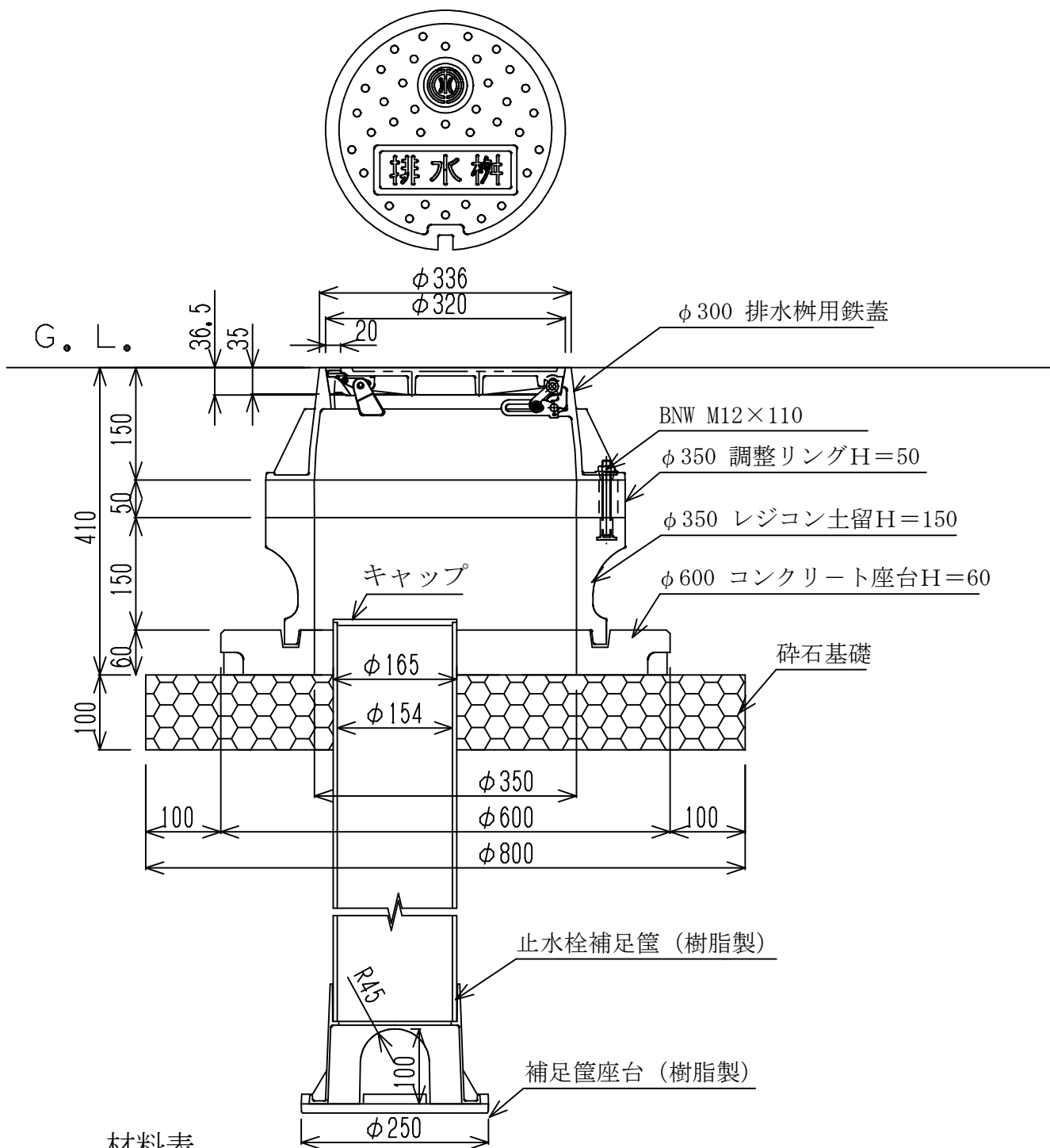
名 称	形状及び寸法	単位	員 数	摘 要
土留	$\phi 700 \times 300$ (C型)	ケ	1	
〃	$\phi 700 \times 200$ (B型)	ケ	1	
〃	$\phi 700 \times 200$ (A型)	ケ	1	
座台	$\phi 900 \times 40$	ケ	1	$\phi 700$ 用
無収縮モルタル	$\phi 700 \times 50$	ケ	1	25kg
調整金具一式	M16 \times 150	ケ	1	調整駒・防護スリーブ
鉄蓋 $\phi 700$	ダクタイル 鑄鉄製丸型	組	1	
砕石基礎	砕石クラッシャーラン0~40	m ³	0.14	

9) 配水管用排水施設図



10) 排水柵設置図

表示色は青色とする



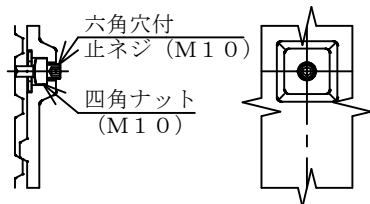
材料表

名称	形状及び寸法	単位	員数	摘要
φ 300 排水柵用鉄蓋	可倒式蝶番構造	ヶ	1	鋳鉄製
BNW M12×110		ヶ	1	SUS304
φ 350 調整リング	φ 350×50	ヶ	1	
φ 350 レジコン土留	φ 350×150	ヶ	1	
φ 600 コンクリート座台	φ 600×60	ヶ	1	
止水栓補足筐	L = 720	ヶ	1	樹脂製
補足筐用座台	φ 250	ヶ	1	樹脂製
砕石基礎	砕石クラッシュラン 0~40	m ³	0.06	目潰含む

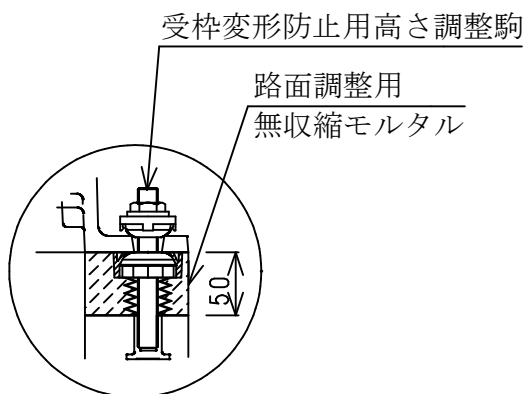
※止水栓補足筐（樹脂製）は土被りに応じて切断使用

1 1) 蓋の高さ調整

ボルト部詳細図



- ※高さ調整の際は、ボルトを緩め、専用の旋回キーを用いて調整する。
- ※高さ調整後は、ボルトを必ず締め込むこと。

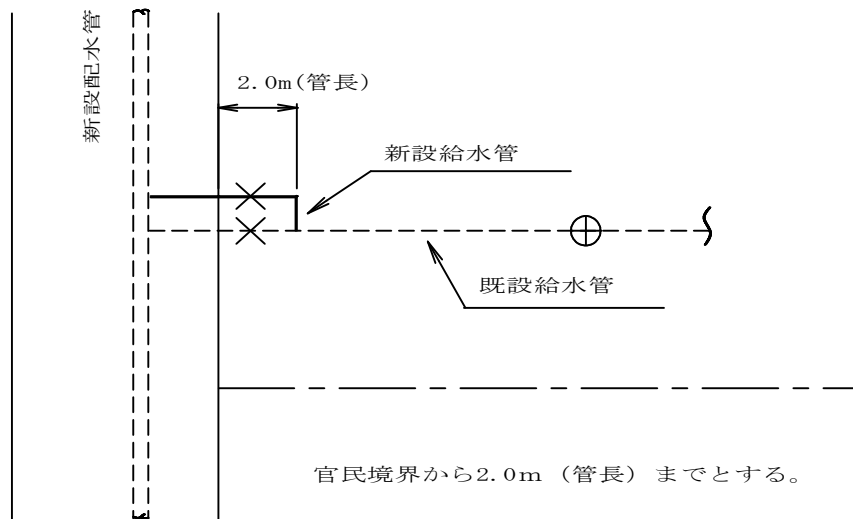


- ※後の高さ調整を考慮し、新設時の無収縮モルタルの調整高さは50 mm (勾配施工時は平均50 mm) を原則とする。

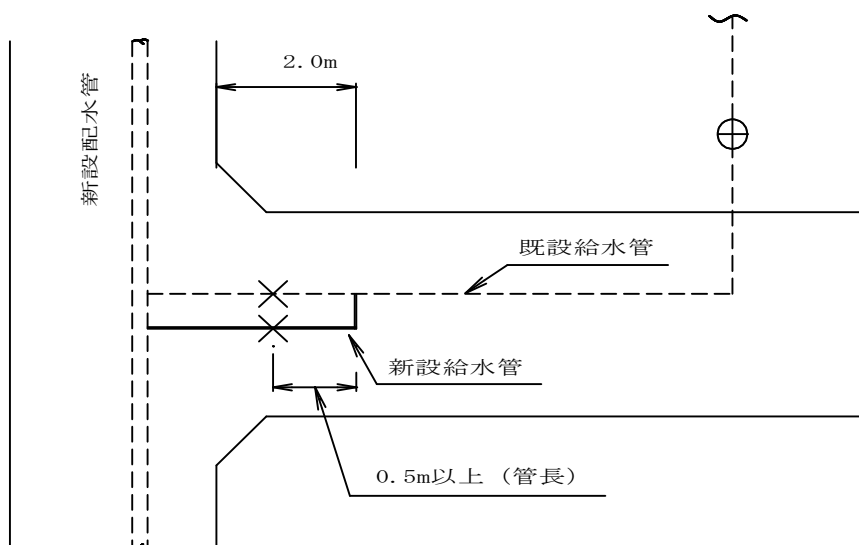
9. その他

1) 給水管切替工

① 民地側の延長が2.0mを越える場合

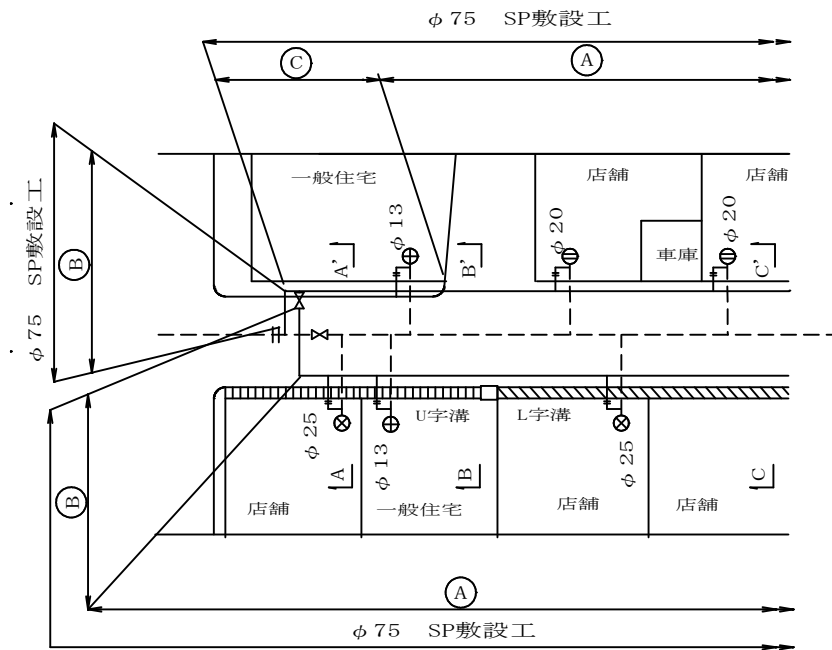


② 縦断埋設されている場合



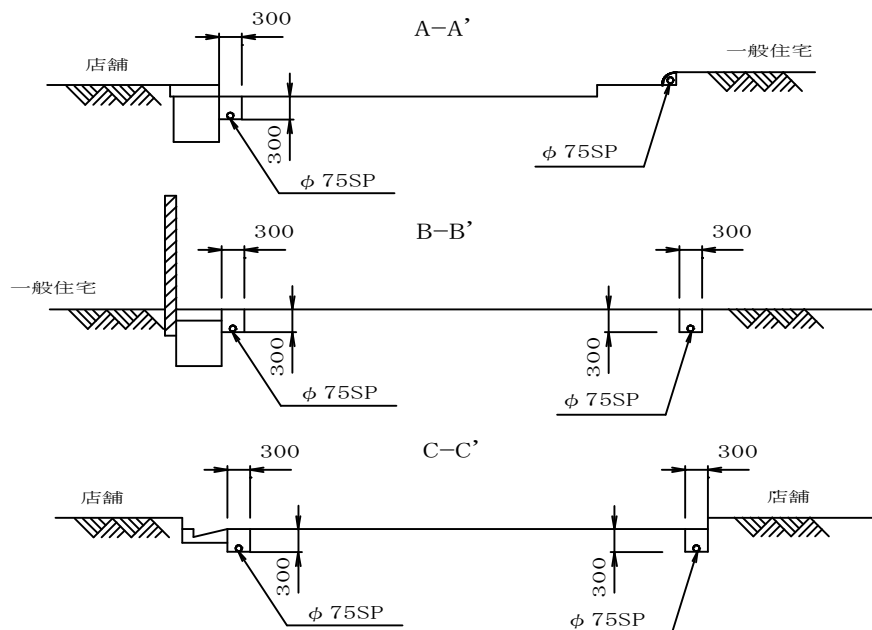
2) 仮配管工(参考図)

平面図



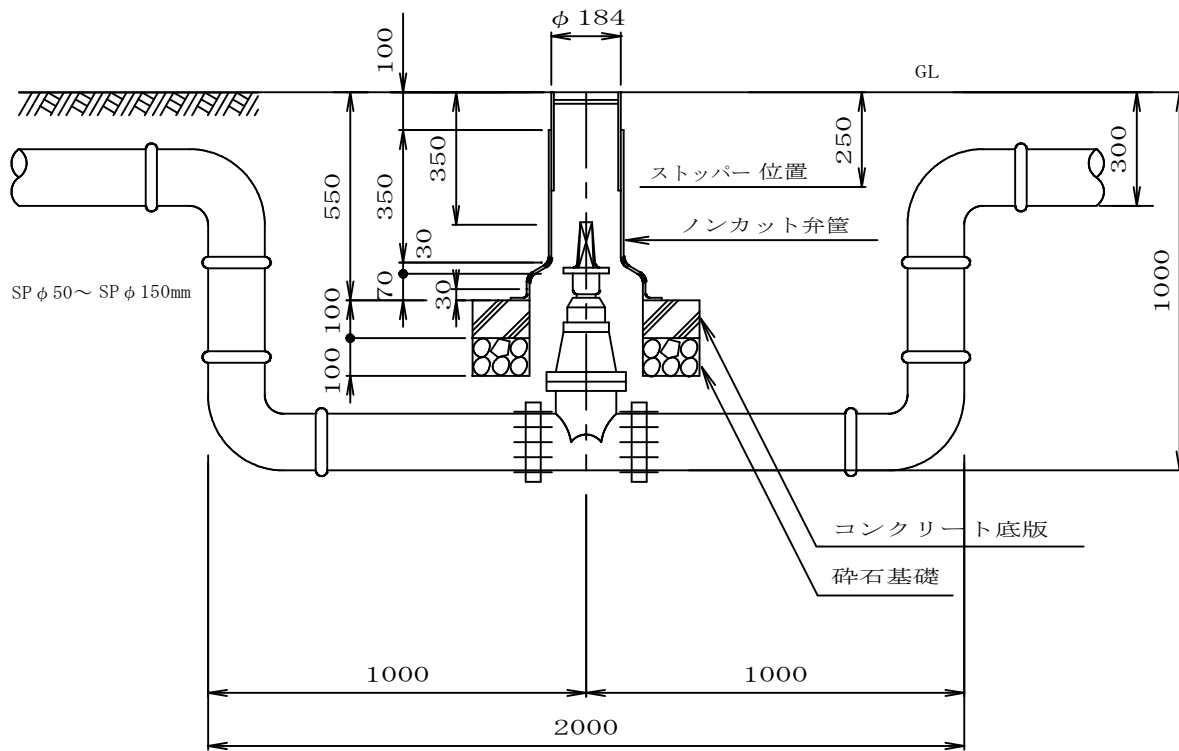
- Ⓐ 道路縦断埋設・・・埋設配管をする場合 300×300で敷設。
- Ⓑ 道路横断埋設・・・交差点付近および重車輛による折損の恐れのある場合 600×600で敷設。
- Ⓒ 露出配管・・・合材等による防護及び出入り口等の部分的な埋設。

横断面図

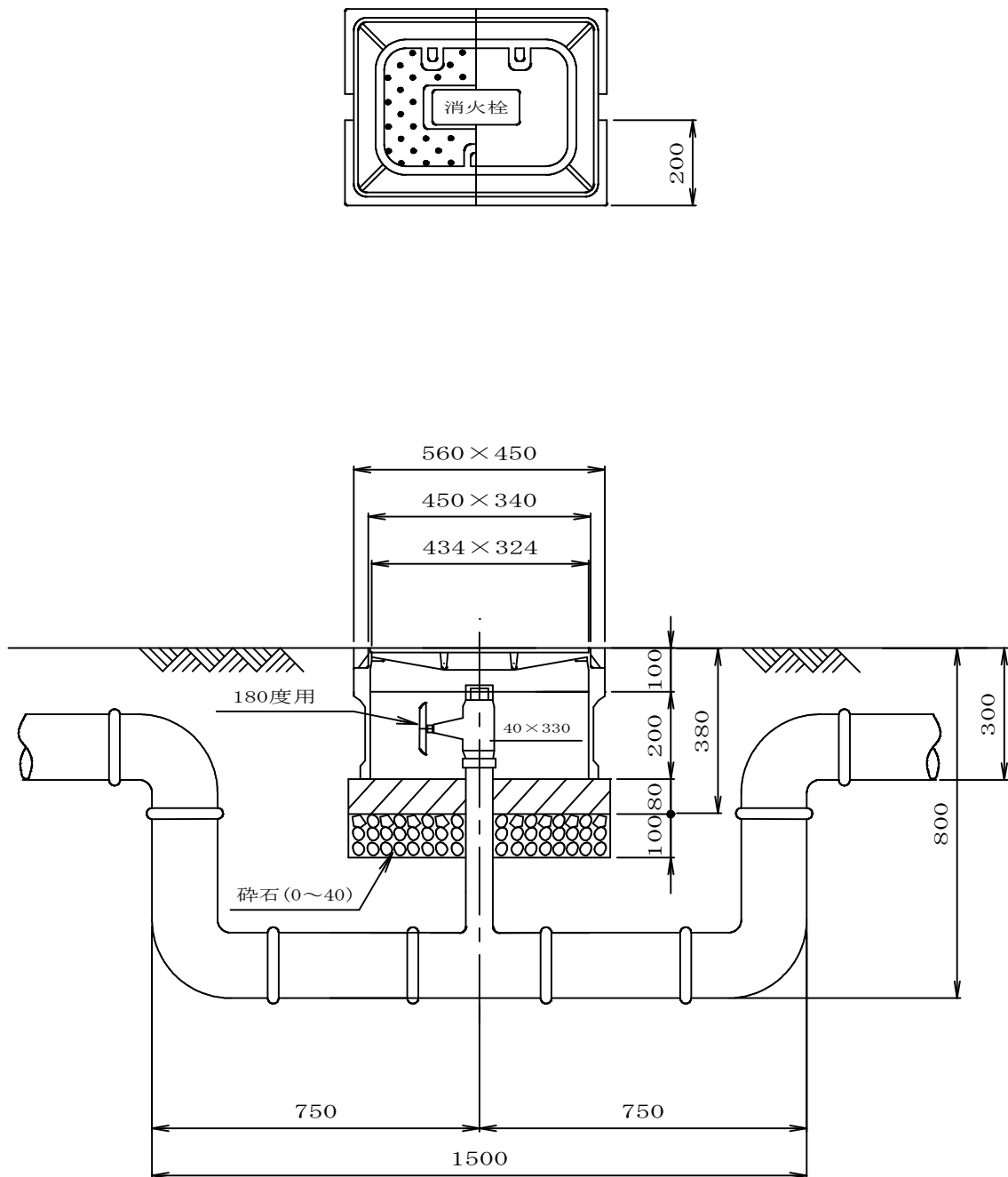


3) 仮設仕切弁筐設置図

ノンカット式仕切弁筐（ソフトシール弁）

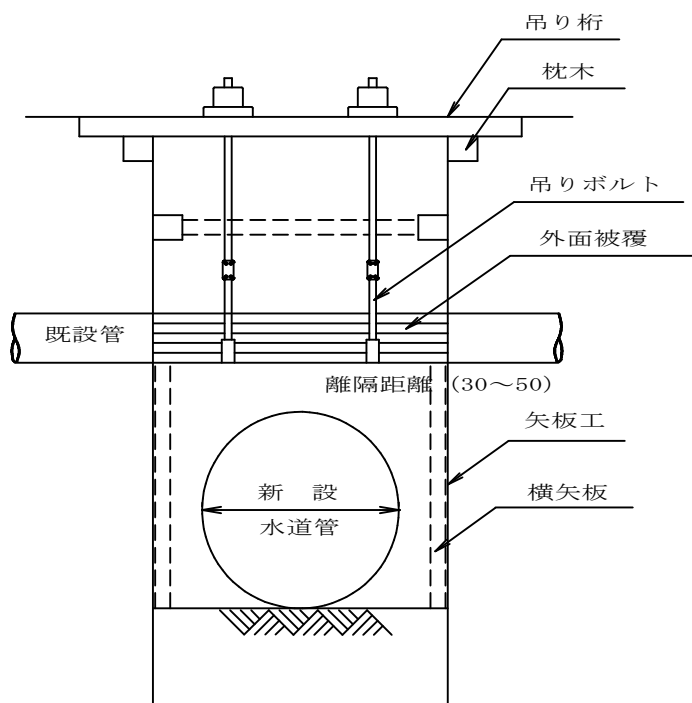


4) 仮設消火栓室設置図

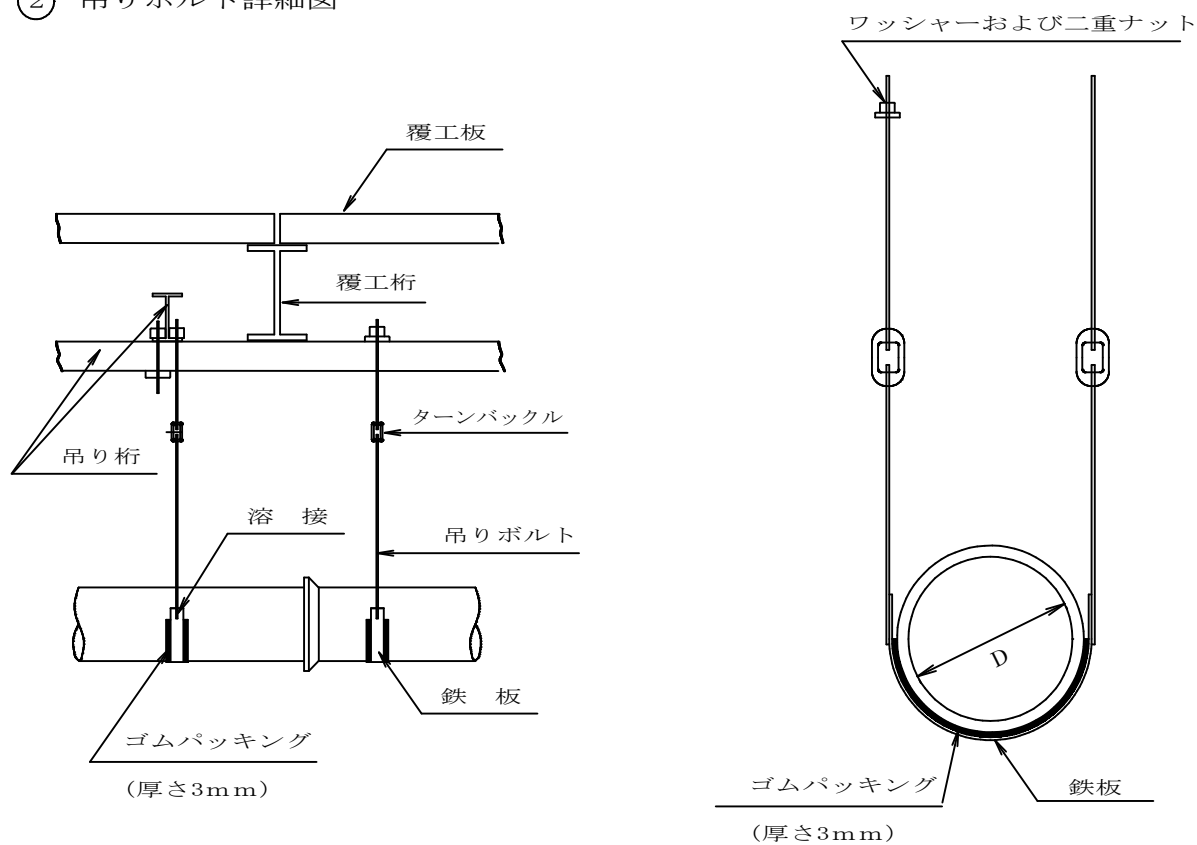


5) 吊り防護工(参考図)

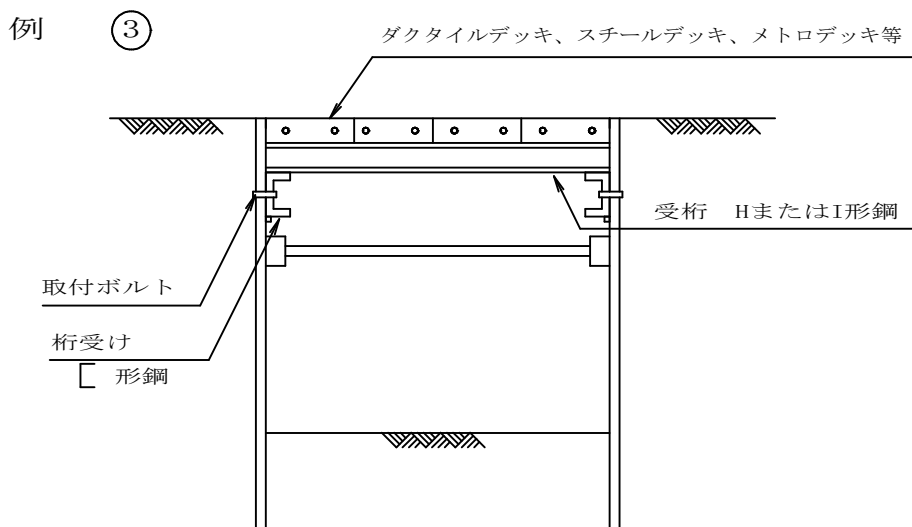
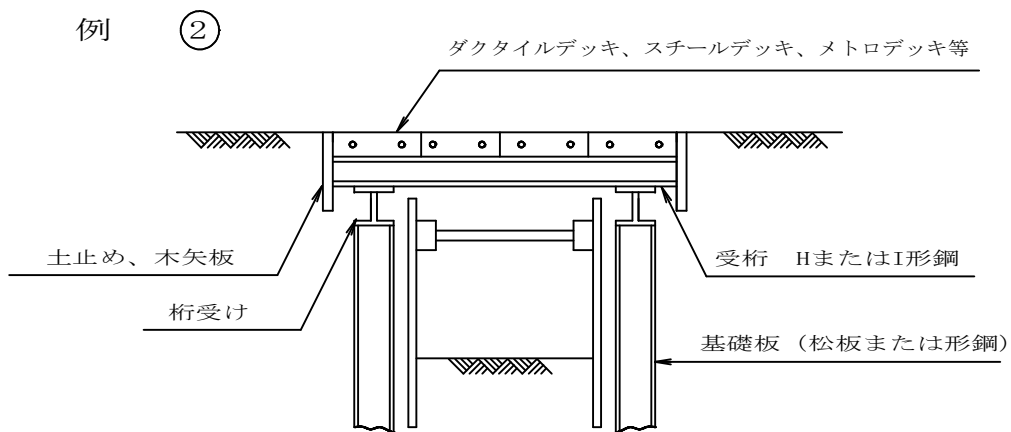
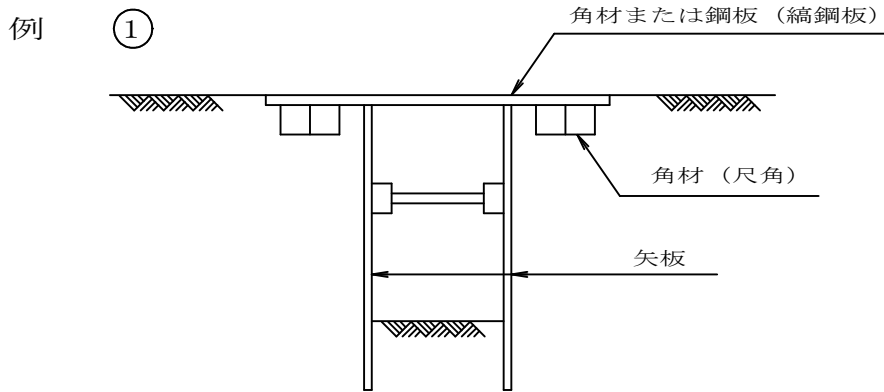
① 既設管保護工図



② 吊りボルト詳細図



6) 覆工(参考図)



小口径配水管布設工事用
標準図集

平成25年8月作成
令和 3年3月改定

千葉県企業局水道部給水課